

組研の歩み（抄録）

znakao

組研の歩み

(抄録)

野村流音楽協会 組踊地謡研修部
記念誌編集委員会



平成 26 年 12 月 25 日

©2015 野村流音楽協会 All Rights Reserved

組踊研修部 37年の歩み



野村流音楽協会 会長 神田 米三

この度、野村流音楽協会の組踊地謡研修部『組研の歩み』が多くの関係者のご尽力により発刊されますことに対し、心よりお礼を申し上げます。

我が野村流音楽協会では、地謡養成事業の一環として、昭和52年2月に組踊地謡研修部、昭和59年2月に舞踊地謡研修部を設置し、これまで技能保持者の指導のもと、月例研修会をはじめ、自主研修、自主公演、地域の福祉施設への慰問公演などを通して会員の技術の向上に努めてきました。

組踊は、中国からの冊封使接待の余興芸能として1719年、玉城朝薫によって始めて上演され、300年の時空を超え1972年（昭和47）の3月に、国の重要無形文化財に指定され、平成22年11月16日にユネスコ「世界無形文化遺産」に登録されました。まさに、先人たちが脈々と受け継がれてきた重要な文化遺産が世界へ羽ばたいたと言えましょう。

ご承知のとおり、沖縄の伝統芸能は沖縄独自の歴史、風土の中で育まれた優雅で華やか、そして格調高い芸能であり、世界に誇れる貴重な文化遺産のひとつであり、沖縄の伝統文化の中で重要な地位を占めると同時に、私たちの生活に安らぎと潤いを与えてくれます。顧みますと、組踊地謡研修部員は各支部から優秀な方々が推薦され、5年の研修期間において十分なる研鑽を積み、これまで多くの方が研修を修了されており、その修了生が各支部の指導者となって活躍されております。また、研修演目においても朝薫五番一挙上演をはじめ、数々の組踊を上演するなど、技量的にも大なるものがあります。

現在、国指定重要無形文化財保持者をはじめ、多くの実演家を送り出しており組踊りの普及発展に尽力されているところであります。この度の『組研の歩み』発刊は、これまでの組踊地謡研修部の活動の足跡を後世への道しるべとして、果たす役割は意義深い取組みだと思っております。

結びに、『組研の歩み』の編集に関わった方々のご尽力に感謝と、寄稿された方々のご協力に対し衷心より感謝申し上げごあいさついたします。

発刊に寄せて



第19代（現）部長 東 江 司

「組研の歩み」発刊に当たりご挨拶申し上げます。

野村流音楽協会組踊地謡研修部は、昭和五十二年二月に発足し、今年で三十七年目にあたります。そして一昨年、自主公演の開催が三十回を数え『朝薫五番』を一挙上演いたしました。その数年前の平成二十二年十一月には組踊がユネスコの世界無形文化遺産に登録されました。

組踊は、琉球王朝の時代に創作され、廃藩置県、戦前、戦後と様々な歴史的困難の時代を乗り越え継承されてまいりました。これは申すまでもありませんが、先人たちの知恵と努力、郷土への誇りが生んだ賜物と思います。「琉球」という言葉に逞しい力強さと、穏やかな響きを感じるのは、私一人だけではない筈です。

現在でも各地域においては、旧暦の八月・九月に公民館の前広場、あるいは拝所にバンク（野外舞台）を建て、三日三晩、夜通し豊年祭が行われ、その中で組踊が上演されるところも多々あります。私も幼少の頃、両親に手を引かれ良く観にいったものの、延々と続く組踊の長い唱えにたちうちできず、睡魔に襲われたことをよく覚えています。

しかし、不思議なことに物心がついた頃には、歌・三線が自然に心の中に響いておりました。近年では素晴らしいことに、学校教育においても各地域の伝統文化を学ぶ機会が増えてきており、児童・生徒達が組踊を上演する学校もあります。

次世代を担う子供たちが沖縄の伝統芸能、そして組踊を学ぶことは、継承・発展に寄与するものと思います。

最後に、「組研の歩み」発刊にあたり、諸先輩方に寄稿を依頼しましたところ、苦労話や逸話そしてユーモラスな話もたくさんお寄せ頂きました。学術的なお話や、研究のお話、素晴らしい随筆、随想で組踊への熱い・熱い思いに心より感謝申し上げます。

又、これまでの公演のスナップ写真や名簿で、指導者の先生方、立方の先生方そして歴代の部長及び役員の方々、部員の皆様のお名前を拝見いたしますと、著名な大先輩が並び、感動と同時に改めて身の引き締まる思いと、深く敬意を表するものでございます。

沖縄の伝統芸能そして組踊は、後世に脈々と受け継がれていくものと確信いたします。今後も組踊地謡研修部員と共に、なお一層研鑽を積み、継承・発展に努めてまいります。これまでご指導、ご支援、ご協力を頂きました関係各位に熱く御礼を申し上げ挨拶と致します。



島袋 英治

野村流音楽協会師範
伝統組踊保存会保持者・常任理事
県指定無形文化財湛水流保持者
沖縄伝統音楽 野村流保持者

組踊研修部の地謡指導での感想

私が組踊研修部の指導者を委嘱されたのは平成18年であった。組踊保持者認定を受けたのは平成9年で、その後指導者の打診があったが、この時期とても多忙で高校の教員をしながら高教組の組踊部会に関わり、高校生への組踊鑑賞会へ毎年出演していた。

また、野村流音楽協会コザ支部長や沖縄市芸能団体協議会会長を担当し、湛水流保存会の事務局長も担当、そして平成10年から4年間組踊保存会の事務局員も仰せ付かっていて、会員として組踊全国公演や保存会の定期公演、県内組踊普及公演にも出演した。

私が組踊研修部の発表会へ部員として出演したのは、昭和60年1月27日に開催された本部町中央公民館で開催された自主公演であった。組踊「女物狂」の三線担当で出演したが、この前後前記の団体との関わりがあり、研修部の活動にはほとんど参加できず休部状態であった。

平成18年から組踊研修部の指導を担当するようになったが、研修部の会員はとても研究熱心で、指導の一部始終を懸命に聞いて勉強しているようで、質問したり意欲的であった。舞踊研修部との合同発表会や自主公演など、組踊研修の回数も増え会員も増加して、研修方法も工夫され活発になった。

これまで、玉城朝薫の五番をはじめ、手水の縁、花売の縁、萬歳敵討、雪払い、久志の若按司などを指導してきた。初めて組踊に挑戦する方はまずは、基本の朝薫五番であるので、組踊の基本である歌出しの音高、仮名がけ、情感表現、台詞などを学び、更に発展させるべく努力することである。

日本国の重要無形文化財に指定され、またユネスコの世界文化遺産の登録など、誇り高い文化を育んだ我が沖縄に誇りを持ち、今後世界へ発信できるよう頑張ってください。

次に平成25年4月7日第30回自主公演「朝薫五番一挙上演」の講評を列記します。

1. 銘苺子（女性担当）

- ① 三線・箏・笛・胡弓・太鼓など調和が良くとれていて、良好であり全体的に良かった
- ② 三線担当の女性の声と立方の台詞、子供の台詞等が調和して良かった。
- ③ 東江節の「アーキー」の独唱から斉唱につなぐところで息継ぎをしていた。
ここで息継ぎはしないで斉唱へつないでいくほうがいい。
- ④ 三線女性地謡の良き模範となる素晴らしい組踊地謡でした。

2. 執心鐘入（男性担当）

- ① 歌出しで音程狂いがあった。散山節は太鼓がかぶさるところで、歌がほとんど聞こえなかった。
- ② 笛の出だしが遅いところがあった。

- ③ 歌が声量不足で聞きにくいところがあった。
 - ④ 鬼と小僧たちの対決場面で、太鼓の盛り上げが足りない、「野声」が足りない。
 - ⑤ その他は楽器・歌が調和して良かった。
3. 女物狂（女性担当）
- ① 全体的に良かった。楽器・声などよく調和していた。
 - ② 太鼓がかぶるところは声あまり聞こえなかった。
 - ③ 二揚へ調弦するとき、音をもっと小さくする工夫をすること。
 - ④ 歌の歌詞がもっと大きく聞こえると良いと思った。
 - ⑤ 女性地謡として、とても良い情感が表現出来ていた。
4. 孝行の巻（男性担当）
- ① 難曲をよく稽古し歌・三線が調和していた。
 - ② 歌出しで音程が気になったところがあった。
 - ③ 雑音「三線の駒倒れか？」があったが、場面に影響はなかった。
 - ④ よく合同稽古したようで全体的にまとまっていた。
 - ⑤ 歌詞があまり聞き取れない部分があった。
5. 二童敵討（男性担当）
- ① 後半の二童の踊り（津堅節）の場面はテンポが早かったようだ。
 - ② 歌詞が聞き取りにくい、節入れ、リズムが気になった部分があった。
 - ③ 列弾き「ジャン ジャン・・・」のシメがあってなかった。

※ 全体的な講評

玉城朝薫五番公演は大成功だった。初期の目標が達成されたと思う。

- 1. 三線・箏・笛・胡弓・太鼓が良く調和して、稽古の成果が現れた。
- 2. 女性地謡が良く頑張って、大変よかった。
- 3. 歌、節入れ、テンポなどは全体的に良かった。
- 4. 地謡台での姿勢や動きは特に問題なかった。
- 5. 歌詞が聞き取りにくい場面があった。
- 6. 二童敵討の後半部分のテンポが早すぎたのは気になった。
- 7. 立方の演技も良かった。子供役の台詞唱えも大変良かった。

※ 組踊公演の配慮すべき事項

- 1. 地謡のチームワークを良くとること。
- 2. 歌舞劇としての心情表現に配慮すること。
- 3. 合同稽古を重ね、場面展開の共通理解をする。
- 4. 発声練習を重ね、歌詞をはっきり歌う稽古をする。
- 5. 箏・笛・胡弓・太鼓などの伴奏楽器の効果をしっかり出すこと。
- 6. 実演している自分達には判明しない所を、第三者の立場で聞く人の感想、感じを聞き参考にすること。



親泊 興照

伝統組踊保存会 保持者
沖縄伝統舞踊 保持者
親泊本流親扇会 二代目家元

組踊の地謡・立方の研修を考える

野村流音楽協会組踊地謡研修部自主公演 30 周年に寄せて、我が沖縄の宝「組踊」が昭和四七年五月十五日、本土復帰と同時に能、歌舞伎、文楽などと国の重要無形文化財に指定を受け、その後、平成二二年十一月にユネスコの世界無形文化遺産になりました。

野村流音楽協会は、いち早く音楽指定団体として組踊地謡研修部を発足させ、組踊普及発展に大きく貢献しております。研修部卒業後は、高いレベルの組踊研修や各支部の指導者として活躍し、今や組踊地謡の大半を野村流音楽協会の組織団体の会員が占め、組踊の発展に御尽力なされ優秀な人材を輩出し裾野の広がりを見せて居られます。

さて、折口信夫は昭和十一年、上京公演で伊波普猷は「執心鐘入」が現地で人気があるのかと聞かれて「作よりはまだまだ芸の方が出来てを」と述べ、作品や型の不十分どころが、演者の技量によって補われるところが大きいことを指摘している。

また、伊波普猷は御冠船の時代よりずっと芸は良くなっているという玉城盛重の言葉を伝えている。長老の師匠方が芸の力で見せたところも、必ずしも伝統的な型が生きていたとは言えず、芸の力と組踊の型の伝承とは区別して考えなければならない。多くの演者は、組踊の型についての明確な認識がないまま、国指定の名目とやがて建設される組踊劇場の期待のうちに、我も我もと組踊を上演するに至ったため、少なくとも表面的には、かつてない組踊の隆盛が見られるようになった。しかし、これらの上演は誤った型を何の疑念も挟まず上演するか、また疑問を抱きつつも方向を誤り、写実的な演技に走るなど迷走を続けているのが現状であると指摘されている。

- 一、組踊は、古典芸能として定まった様式や約束事がある。それを踏まえないと古典と言えない。細部は舞踊の基本から立方の居所、構えや足の運び音楽の細部などにいたるまで、その約束事を守って初めて古典芸能の演出と言えよう。
- 二、組踊の型の伝承は、商業演劇における長い空白のために、記憶違いによる誤った型も行われている。それらは、慎重に検討の上修正されなければならない。
- 三、修正にあたっては、その前提として台本の的確な読み込みが行なわれなければならない。また、所作については台本詞章や解釈に忠実でなければならない。

「執心鐘入」について、昭和十一年の東京公演以降に限っても、その型の変化は極めて多い。また、演出がいろいろありうる事が明白（各種資料、矢野資料参照）である。決まりや約束事を失ったものは、もはや古典とは言えない。それゆえ、演者の考え方や芸風による型の差異が生まれている。一九六八年、真境名組踊会において先生は「組踊は理論、理屈で動かすと限りがありませんよ」と言っていた。また、伊波本の表記について普猷先生と玉城盛重の論争があったが、普猷先生は聞き入れてくれず、盛重先生は読谷山親雲上からこのように師事を受けた旨伝えたが、解釈の相違があったとのことである。さて、正しい伝統芸能は先達の芸をしっかりと身に付けることでしょう。その上に立って芸能研究家との芸系の差異、相違は演技全体の歩み寄りで可能になるでしょう。組踊研修部の立方として共に古典芸能組踊の正しい継承と保存に努めてまいりたいと思っております。

【伝統芸能組踊を今日まで継いで来られたのは実演家である】

『組研の歩み』発刊に寄せて



編集委員長 赤 嶺 勝 巳

平成 25 年 4 月 7 日に野村流音楽協会組踊地謡研修部自主（修了）公演（朝薫五番一日一挙）上演が 30 回目を数え、その節目に記念誌作成が計画され 1 年半かけてここに出来上がりました。大変感無量であります。野村流音楽協会組踊地謡研修部は、1977 年（昭和 52）2 月に鳥袋正雄先生の肝入りで発足しました。実に今年 2014 年から遡ること 37 年も前のことでもあります。発足当初は三線のみで始まったということです。程なくして伴奏楽器も加わり、組織としての会則も 1981 年（昭和 56）に出来上がりさらに会員も増えました。発足当初は研修期間の規定は 10 年でしたが、会則で 5 年と定められ現在に至っております。

組踊は復帰の年 1972 年（昭和 47）の 3 月に国の重要無形文化財に指定され、保護及び地謡の育成が急務であり、発足当初の研修部員は鳥袋正雄先生の号令の下に実演家としての研鑽に励んでいたものと思われまふ。第 1 回目の発表会は、発足から 2 年後 1979 年（昭和 54）の 12 月に浦添市民会館で開催されました。それから早 35 年が過ぎ、2014 年 4 月の自主公演で 31 回目を数え、1987 年（昭和 62）の 10 周年記念公演を合わせて 32 回の公演を終えたこととなります。

研修部の定期公演は年に 2 回あります。秋には舞踊地謡研修部との合同発表会、春には自主公演（修了公演）があり、そのほかにも不定期に多数の公演依頼がありましたが、本書では不定期公演は取り上げてありません。

我が組踊研修部に遅れて 8 年後、舞踊地謡研修部が 1985 年（昭和 60）に発足し、両研修部合同の第 1 回発表会が翌年 1986 年（昭和 61）10 月に開催され、2014 年 9 月で 29 回を終えました。公演記録は実際のプログラムパンフレットを元に忠実に記載してあります。合同発表会は組踊のみの記載ですが、自主公演は全ての演目をプログラムの順番通りに記載してあります。また、本来ならば修了者の名簿に記載すべきですが、初期の研修部員には修了したか否かの確認が困難であり、やむおえず研修部員の名簿は修了者ではなく入部者で記載してあります。初期の入部者の中には他会派に移籍した方もいますが、組研 37 年の歴史をさかのぼるため、あえて削除はしてありません。記録として残っているのは 1980 年からその年の入部員の中には、1977 年発足当初の部員も含まれています。

組踊は 2010 年（平成 22）にユネスコの世界無形文化遺産に登録され、各団体でのいろいろな取り組み、県外公演ひいては海外公演も盛んになるものと思われまふ。今まで開催された公演には、先輩方の意気込みや気概が感じられる公演も多数あり、我々後輩もさらに研鑽に励み技術向上に務めるよう願ってやみません。また組踊は立ち方あつての組踊であり、地謡あつての組踊であります。お互いが切磋琢磨し、いい舞台を作り上げることを常に意識することが大事だと思います。寄稿文をお寄せいただきました地謡、立方の指導者の先生方及び OB の皆様、膨大な資料を提供して頂きました上運天秀雄先生はじめ、御協力下さいました諸先生方に感謝申し上げ結びと致します。

野村流音楽協会組踊地謡研修部自主公演記録

※ 第1回自主公演 1979年(昭和54)12月15日 浦添市民会館

舞踊：若衆こてい節

組踊：手水の縁 立方：宮城能造琉舞道場

山戸：宮城能鳳 玉津：宮城能舞 志喜屋の大屋子：宮城能史

山口の西掟：糸数昌益 門番：宮城能造

歌・三線・箏・笛・太鼓：組踊地謡研修部員

舞踊：作田節

組踊：花売の縁 立方：親扇会琉舞道場

森川の子：比嘉丈芳 乙樽：鳥袋久玄 鶴松：鳥袋久代 猿引：松川考徳

猿：金城ひとみ 薪木取：真喜志康忠

歌・三線・箏・笛・太鼓：組踊地謡研修部員

《第1回公演のみ地謡の氏名記録なし。》

※ 第2回自主公演 1980年(昭和55)10月18日(土)浦添市民会館

舞踊：かせかけ

組踊：執心鐘入 立方：宮城能造琉舞道場

中城若松：宮城能舞 宿の女：宮城能葵 座主：宮城能史

小僧：宮城能鳳 糸数昌益 金城栄子 鬼女：新城エミ子

歌・三線：宮城文詔 佐久間興永 宮城栄光 棚原憲政 新城清弘

箏：高良時江 笛：小波本直俊 太鼓：伊良波幸善

舞踊：天川

組踊：二童敵討 立方：親扇会琉舞道場

あまおへ：鳥袋久玄 鶴松：比嘉幸子 亀千代：鳥袋久代 母：比嘉丈芳

供：松川考徳 平良勝 親川良信 きゃうちゃこ持：平良清美

歌・三線：古謝進良 糸数昌保 比嘉政憲 照屋勝義 比嘉常俊

箏：山内照子 笛：小波本直俊 太鼓：伊良波幸善

10月19日(日)具志川市復帰記念会館

舞踊：かせかけ

組踊：執心鐘入 立方：宮城能造琉舞道場

中城若松：宮城能舞 宿の女：宮城能葵 座主：宮城能史

小僧：宮城能鳳 糸数昌益 金城栄子 鬼女：新城エミ子

歌・三線：大城朝徳 安仁屋正吉 松田実 渡慶次賀久 伊波信徳

箏：宜保菊子 笛：小波本直俊 太鼓：伊良波幸善

舞踊：天川

組踊：二童敵討 立方：親扇会琉舞道場

あまおへ：鳥袋久玄 鶴松：比嘉幸子 亀千代：鳥袋久代 母：比嘉丈芳

供：松川考徳 平良勝 親川良信 きゃうちゃこ持：平良清美

歌・三線：屋富祖昌栄 伊良波長保 伊良波幸善 具志堅興盛

箏：仲真秀子 笛：小波本直俊 太鼓：嘉味田光子

12月8日

齊唱：今風・中作田

独唱 本調子：本赤田花風 赤田風 本花風 仲風 下出し仲風

歌・三線：古謝進良 比嘉政憲 宮城文詔 波平憲広 糸数昌保

箏：山内照子 仲真秀子 宜保菊子 山内照子 宜保菊子

独唱 二揚：仲風 下出し仲風

歌・三線：東恩納清二 知花元盛

箏：宜保菊子 仲真秀子

組踊：女物狂 立方：親泊流親扇会

盗人：親泊久玄 男子：宮里ふき子 母：平八重子 座主：比嘉丈芳

小僧：親川良信 松川考徳 童子：比嘉幸子 永吉静子 山入端美智子

歌・三線：古謝進良 具志堅興盛 伊良波長保

箏：仲真秀子 笛：知念久光 太鼓：伊良波幸善

12月9日

齊唱：今風・中作田

独唱 本調子：本赤田花風 赤田風 本花風 仲風 下出し仲風

歌・三線：宮城文詔 渡慶次賀久 松田実 波平憲広 古謝進良

箏：山内照子 仲真秀子 宜保菊子 山内照子 宜保菊子

独唱 二揚：仲風 下出し仲風

歌・三線：大城朝徳 平良盛雄

箏：宜保菊子 仲真秀子

組踊：女物狂 立方：親泊流親扇会

盗人：親泊久玄 男子：宮里ふき子 母：平八重子 座主：比嘉丈芳

小僧：親川良信 松川考徳 童子：比嘉幸子 永吉静子 山入端美智子

歌・三線：比嘉政憲 糸数昌保 渡慶次賀久 松田実

箏：宜保菊子 笛：知念久光 太鼓：伊良波幸善

12月10日

齊唱：今風・中作田

独唱 本調子：本赤田花風 赤田風 本花風 仲風 下出し仲風

歌・三線：古謝進良 比嘉政憲 宮城文詔 波平憲広 糸数昌保

箏：山内照子 仲真秀子 宜保菊子 山内照子 宜保菊子

独唱 二揚：仲風 下出し仲風

歌・三線：東恩納青二 知花元盛

箏：宜保菊子 仲真秀子

舞踊：諸屯 高平良萬歳 花風

舞踊：忍び 立方：宮城能鳳 宮城能舞

歌・三線：宮城栄光 比嘉常俊 照屋勝義 箏：仲真秀子

※ 第4回自主公演 1982年(昭和57)11月23日 琉球新報ホール

舞踊：赤馬節

組踊：銘苺子 立方：宮城美能留会

銘苺子：赤嶺正一 天女：古謝弘子 男子：比嘉秀樹 娘：喜瀬千秋

上使：仲嶺眞栄 供：新崎勝也 津波盛宏 きょうちゃく持：宮城孝子

歌・三線：古謝進良 知花元盛 照屋勝義 平良盛雄 東恩納清二

箏：新城幸子 笛：小浜義光 太鼓：伊良波幸善

舞踊：作田節

組踊：萬歳敵討 立方：親泊流親扇会

謝名の子：比嘉丈芳 慶運：松川考徳 高平良御鎮：親泊久玄

妻：平八重子 娘：比嘉幸子 供：宮里徹夫 比嘉清 道行人：親川良信

列女：永吉静子・稲嶺たつ子 きょうちゃく持：平良清美

歌・三線：比嘉常俊 宮城栄光 渡慶次賀久 松田実 波平憲広

箏：安里ヒロ子 笛：知念久光 太鼓：伊良波幸善

11月24日 名護市北部会館

舞踊：長者の大主

舞踊：花見踊り

独唱(二揚)：仲風節 百名節 述懐節 サーサー節

歌・三線：伊礼清次 屋富祖昌栄 具志堅全信 具志堅興盛

箏：米須好子 米須好子 高良時江 高良時江

舞踊：ゼイの踊り

舞踊：加那ヨ一天川

組踊：萬歳敵討 立方 親泊流親扇会

謝名の子：比嘉丈芳 慶運：松川考徳 高平良御鎮：親泊久玄

妻：平良八重子 娘：比嘉幸子 供：宮里徹夫 比嘉清 道行人：親川良信

列女：永吉静子・稲嶺たつ子 きょうちゃく持：平良清美

歌・三線：屋富祖昌栄 具志堅全信 具志堅興盛 伊良波長保 照屋眞正

箏：山内照子 笛：小浜義光

※ 第5回自主公演 1983年(昭和58)11月29日(火) 琉球新報ホール

齊唱：稲まづん節・早作田節

舞踊：前之浜 本貫花

独唱：仲風 歌・三線：富川盛良 箏：山内照子

組踊：久志の若按司 立方：宮城能造組踊研究会

謝名の太主：宮城能造 富盛大主：宮城能史 川崎のひゃ：海勢頭あける

平田の子：赤嶺治 久志の若按司：宮城能鳳 天願の若按司：宮城能撰

乙鶴：宮城千春 立川大主：糸数昌益 砂田の子：嘉手苺林一

伊豆味下庫理：前原輝雄 浜崎のひゃ：糸洲清 宿主：野原広和

供：新里勝弘 呉屋紀雄 きょうちゃく持：比嘉清美 上地順子

歌・三線：古謝進良 照屋勝義 比嘉常俊 波平憲広 東恩納清二

箏：安里ヒロ子 笛：小浜義光 太鼓：伊良波幸善

11月30日（水）宜野湾市民会館

齊唱：本田名節・真福地之はいちょう節・揚高二久節

舞踊：月見踊り 前之浜 花見踊り 諸屯 高平良万歳

独唱：本花風節 歌・三線：玉城宗吉 箏：宮城秀子

組踊：花売の縁 立方：親泊流親扇会

森川の子：比嘉丈芳 乙樽：平良八重子 鶴松：渡ヶ次孝枝

猿引：宮里徹雄 猿：上地陽子 薪木取：親泊久玄

歌・三線：渡慶次賀久 大城朝徳 松田実 仲嶺朝信 照屋貞正

箏：米須好子 笛：知念久光 太鼓：伊良波幸善

※ 第6回自主公演（朝薫5番）1984年（昭和59）10月7日（日）具志川市復帰記念会館

舞踊：こてい節 かせかけ 浜千鳥 前之浜

組踊：二童敵討 立方：親泊流親扇会

あまおへ：親泊久玄 鶴松：比嘉幸子 亀千代：鳥袋久代 母：比嘉丈芳

供：宮里徹雄 鳥袋正堅 親川良信 きゃうちゃこ持：平良清美

歌・三線：古謝進良 大城朝徳 宮城文詔 仲嶺朝信

箏：山内照子 笛：知念久光 太鼓：伊良波幸善

10月10日（水）琉球新報ホール

舞踊：月見舞 前之浜 花風 高平良万歳

組踊：執心鐘入 立方：宮城能造組踊研究会

若松：宮城能舞 宿の女：宮城能葵 座主：宮城能造

小僧：宮城能史 赤嶺治 宮城能香 鬼女：宮城能麗

歌・三線：照屋勝義 渡慶次賀正 座安盛善 東恩納清二 平良盛雄

箏：安里ヒロ子 笛：小浜義光 太鼓：古謝進良

12月2日（水）宜野湾市民会館

舞踊：女こてい節 かせかけ 諸屯 黒鳥口説

組踊：銘苺子 立方：宮城能造組踊研究会

銘苺子：宮城能鳳 天女：宮城能葵 おめなり：宇座仁一 おめけり：宮城ちはる

上使：宮城能史 供：糸数清 又吉康信 きゃうちゃこ持：上原雅恵

歌・三線：渡慶次賀久 波平憲広 屋富祖弘 金城昌吉 山口栄堅

箏：米須好子 笛：小浜義光 太鼓：伊良波幸善

1985年（昭和60）1月27日（日）本部町中央公民館

舞踊：谷茶前 かせかけ 下り口説 瓦屋 加那ヨ一天川

組踊：女物狂 立方：親泊流親扇会

人盗人：親泊久玄 男子：平良真弓 母：平良八重子 座主：比嘉丈芳

小僧：親川良信 宮里徹雄 童子：比嘉幸子 大城美智子 鳥袋久代

歌・三線：具志堅全信 屋富祖昌栄 鳥袋英治 喜友名朝宏 屋良朝光

箏：安里ヒロ子 笛：知念久光 太鼓：伊良波幸善

2月10日(日)嘉手納町民会館

舞踊：かぎやで風 女こてい節 高平良万歳 金細工

組踊：孝行の巻 立方：宮城流美能留会

男子：宮城須賀子 姉：古謝弘子 母：渡久地美代子 頭取：赤嶺正一

時之大屋子：宮城美能留 供：佐久本稔 新崎勝也

歌・三線：比嘉常俊 松田実 照屋貞正 真壁朝慶

箏：宮城秀子 笛：知念久光 太鼓：宮城文詔

※ 第7回自主公演 1985年(昭和60)11月19日(火)浦添市民会館

齊唱：稲まづん節・早作田節

舞踊：老人踊り 谷茶前

組踊：矢蔵の比屋 立方：親泊流親扇会

矢蔵の比屋：親泊久玄 呉屋の大役：宮里徹雄 嘉手苺の子：岸本永次

虎千代：比嘉幸子 乙樽：稲嶺たつ子 御主前：真境名盛明 ハーメー：大城美智子

上地モーヤー：親川敬 越来ドン：比嘉一雄 森川の比屋：比嘉丈芳

内間の子：親川良信 山戸：永吉静子 平良：親川良信 門番：鳥袋正堅

きゃうちゃこ持：湧川洋子

歌・三線：比嘉常俊 具志堅全信 渡慶次賀久 仲嶺朝信 真壁朝慶

箏：安里ヒロ子 笛：知念久光 太鼓：屋我平光

12月13日(金)琉球新報ホール

齊唱：稲まづん節・早作田節

舞踊：若衆こてい節 浜千鳥 本貫花 湊くり節

組踊：忠臣身替(八重瀬) 立ち方：宮城流能造会

八重瀬の按司：宮城能造 国吉の子：嘉手苺林一 渡橋名の比屋：新里勝弘

玉村の若按司：宮城能舞 里川の比屋嫡子亀千代：宮城能葵 弟金松：宮城ちはる

母：宮城能麗 波平大主：宮城能史 平安名大主：野原広和 吉田の子：宮城能鳳

森川の子：海勢頭あける 崎枝の比屋：糸数昌益 屋部下庫理：嘉手苺林一

外間の子：赤嶺治 門番：呉屋紀夫 金の魔持：前原輝雄 きゃうちゃこ持：宇座仁一

歌・三線：照屋勝義 渡慶次賀正 松田実 金城昌吉 屋富祖弘

箏：米須好子 笛：知念久光 太鼓：安座間保盛

1986年(昭和61)1月12日(日)沖縄市民会館

齊唱：稲まづん節・早作田節

舞踊：作田節 舞方 金細工 江佐節

組踊：大城崩 立方：宮城流美能留会

大城の若按司：宮城早苗 外間の子：宮城美能留 供：津波盛興 佐久本稔

虎千代：宮城園美 金松：宮城須賀子 大里の女按司：古謝弘子 乳母：嘉数紀美子

草切：赤嶺正一 子犬：古謝マキ きゃうちゃこ持：比嘉邦子

歌・三線：大城朝徳 喜友名朝宏 屋良朝光 金城正助 照屋貞正

箏：新城幸子 笛：小浜義光 太鼓：屋我平光

※ 第8回自主公演（朝薫5番）1987年（昭和62）3月29日琉球新報ホール

組踊：銘苺子 立方：宮城能造組踊研究会

銘苺子：海勢頭あける 天女：宮城能鳳 おめなり：高良都 おめけり：金城亜矢子

上使：野原広和 供：嘉手苺林一 前原輝雄 きゃうちゃこ持：伊佐侑子

歌・三線：渡慶次賀正 波平憲広 金城正助 屋富祖弘 与那嶺勝 山城富一

箏：米須好子 波平エミ子 笛：知念久光 太鼓：安座間保盛

組踊：二童敵討 立方：親泊流親扇会

あまおへ：親泊久玄 鶴松：比嘉幸子 亀千代：大城美智子 母：比嘉丈芳

供：宮里徹雄 比嘉一雄 親川良信 きゃうちゃこ持：湧川洋子

歌・三線：大城朝徳 屋富祖昌栄 仲嶺朝信 比嘉謙次 嶺井政順 平良輝雄

箏：上地律子 松堂和子 笛：小浜義光 太鼓：奥間貞広

組踊：孝行の巻 立方：宮城能造組踊研究会

おめなり：宮城能葵 おめけり：宮城能舞 頭取：宮城能史 高札持：赤嶺治

母親：仲嶺伸吾 時之大屋子：仲嶺真永

供：宮城能香 大庭フジ子 宮城能麗 赤嶺治

歌・三線：照屋勝義 真壁朝慶 金城昌吉 銘苺良光 玉城秀木 上原三郎

箏：新城幸子 呉屋栄子 笛：知念久光 太鼓：安座間保盛

組踊：女物狂 立方：親泊流親扇会

人盗人：親泊久玄 男子：具志堅ユリ 座主：比嘉丈芳 母：平良八重子

小僧：親川良信 宮里徹雄 童子：比嘉幸子 湧川洋子 大城美智子

歌・三線：比嘉常俊 具志堅全信 照屋貞正 諸見川和男 与那嶺光男 玉城三夫

箏：栄野川春子 佐次田シズ子 笛：小浜義光 太鼓：奥間貞広

組踊：執心鐘入 立方：玉城流玉賜会

若松：金城清一 宿の女：平田行正 座主：真喜志康忠 鬼女：平田行正

小僧：伊良波晃 具志堅朝堅 仲嶺真宗

歌・三線：渡慶次賀久 松田実 宮城澄雄 平良薫 沢紙安松

箏：安里ヒロ子 東江朝子 笛：知念久光 太鼓：安座間保盛

※ 組研設立10周年記念公演 1987年（昭和62）11月29日 宜野湾市民会館

斉唱：稲まづん節・早作田節

組踊：花売の縁 立方：玉城流玉賜会

森川の子：平田行正 乙樽：金城清一 鶴松：仲嶺真宗

猿引：宇根伸三郎 猿：當山エリカ 薪木取：真喜志康忠

歌・三線：渡慶次賀正 平良薫 沢紙安松 玉城秀木 宮城澄雄 上原起一

箏：又吉八重子 米須好子 笛：小浜義光 胡弓：崎原盛勇 太鼓：安座間保盛

組踊：手水の縁 立方：宮城能造組踊研究会

山戸：宮城能葵 玉津：宮城能舞 志喜屋の大屋子：宮城能史

山口の西掟：仲嶺伸吾 門番：仲嶺真永

歌・三線：金城昌吉 目取間永良 与那嶺勝 山城富一 上原三郎 銘苺良光

箏：安里ヒロ子 上地律子 笛：小浜義光 胡弓：崎原盛勇 太鼓：屋我平光

※ 第9回自主公演 1990年(平成2)3月18日 朝薫5番 琉球新報ホール

組踊：銘苅子 立方：親泊流親扇会

銘苅子：親泊久玄 天女：平良八重子 おめなり：大城美奈子 おめけり：比嘉瞳

首里の御使：比嘉丈芳 供：宮里徹雄 鳥袋正堅

歌・三線：諸見川和男 平良薫 与那嶺光男 石川親助 高江洲昌市 松田栄正

箏：東江朝子 松堂和子 笛：崎原盛勇 太鼓：奥間貞広

組踊：二童敵討 立方：玉城流玉賜会

あまおへ：真喜志康忠 鶴松：金城清一 亀千代：具志堅朝堅 母：嘉数好子

供：金城清 平田智之 平田行正 きゃうちゃこ持：仲西慧美

歌・三線：宮城澄雄 目取真永良 玉城三夫 福地優 仲村渠春考 小浜源政

箏：呉屋栄子 波平エミ子 笛：崎原盛勇 太鼓：安座間保盛

組踊：孝行の巻 立方：宮城能造組踊研究会

頭取：宮城能史 高札持：赤嶺治 おめけり：宮城能舞 おめなり：宮城能葵

母親：宮城能麗 時之大屋子：宇座仁一

供：宮城能里 友寄富材 屋嘉昌子 安仁屋葉子

歌・三線：比嘉謙次 沢紙安松 嶺井政順 玉城巖 牧門武男 池原憲盛

箏：上地律子 栄野川春子 笛：知念久光 太鼓：奥間貞広

組踊：女物狂 立方：玉城流玉賜会

人盗人：平田行正 男子：新里茜 母：平良富士子 座主：金城清一

小僧：平田智之 金城清 童子：鳥袋綾乃 宮里香澄 渡慶次史子

歌・三線：平良輝雄 上原三郎 山城富一 上原起一 鳥袋清信 仲順利治

箏：鳥袋八重子 砂辺米子 笛：崎原盛勇 太鼓：安座間保盛

組踊：執心鐘入 立方：宮城能鳳組踊研究会

若松：海勢頭あける 宿の女：宮城能鳳 座主：糸数昌益 鬼女：宮城能鳳

小僧：赤嶺繁明 嘉手苅林一 根路銘広美 後見：宮城厚子

歌・三線：金城正助 銘苅良光 玉城秀木 上間克美 城間盛秋 金城稔

箏：佐次田シズ子 比嘉陽子 笛：知念久光 太鼓：奥間貞広

※ 第10回自主公演 1992年(平成4)3月14日 バレット市民劇場

齊唱：茶屋節・すき節

組踊：執心鐘入 立方：玉城流玉賜会

若松：金城清一 宿の女：平田行正 座主：真喜志康忠 鬼女：平田行正

小僧：金城清 平田智之 具志堅朝堅

歌・三線：上原起一 喜屋武清 松田栄正 池原憲勝

箏：沢紙京子 笛：崎原盛次 胡弓：崎原盛勇 太鼓：古宇利実

組踊：手水の縁 立方：宮城流鳳の会

山戸：海勢頭あける 玉津：宮城能鳳 志喜屋の大屋子：糸数昌益

山口の西掟：嘉手苅林一 門番：赤嶺繁明

歌・三線：石川親助 仲村渠春考 玉城巖 城間盛秋 上間克美

箏：比嘉陽子 笛：崎原盛次 胡弓：崎原盛勇 太鼓：仲地修仁

組踊：花売の縁 立方：親泊流親扇会
森川の子：比嘉丈芳 乙樽：大城ナミ 鶴松：兼次久美子
猿引：親川良信 猿：上原麻利江 薪木取：親泊久玄
歌・三線：福地優 牧門武男 鳥袋清信 高江洲昌市
箏：砂辺米子 笛：崎原盛次 胡弓：崎原盛勇 太鼓：徳村昭一

※ 第11回自主公演 1993年(平成5)3月6日 バレット市民劇場

齊唱：茶屋節・すき節
舞踊：女こてい節 上り口説 下り口説 諸屯 本嘉手久節
前の浜 むんじゅる 花風 加那ヨ一 天川
組踊：執心鐘入 立方：宮城流鳳乃会
若松：嘉手苺林一 宿の女：糸数昌益 座主：當銘由亮 鬼女：糸数昌益
小僧：石川直也 阿嘉修 根路銘広美 後見：宮城厚子
歌・箏：比嘉陽子 知念佐代子 砂辺米子 沢紙京子
笛：崎原盛次 太鼓：仲地修仁

※ 第12回自主公演 1994年(平成6)3月12日 バレット市民劇場

齊唱：茶屋節・すき節
組踊：女物狂 立方：玉城流玉賜会
人盗人：平田行正 男子：神田牧子 母：平良富士子 座主：金城清一
小僧：具志堅朝堅 平田智之 童子：桑江美香 名嘉真美幸 渡慶次真希
歌・三線：金城稔 宮里健一 金城邦夫 新城栄一 大城英雄
箏：伊波治代子 知念佐代子 笛：崎原盛次 太鼓：仲地修仁
舞踊：むんじゅる 収納奉行
組踊：執心鐘入 立方：宮城流鳳乃会
若松：海勢頭あける 宿の女：宮城能鳳 座主：糸数昌益 鬼女：宮城能鳳
小僧：屋我秀樹 嘉手苺林一 根路銘広美 後見：新垣厚子
歌・三線：仲順利治 平良昭隆 宮里究一 銘苺正昌 宮里秀明
箏：野里葉子 仲間頼子 笛：崎原盛次 太鼓：當山全考
舞踊：加那ヨ一 鳩間節
組踊：二童敵討 立方：親泊本流親扇会
あまおへ：親泊久玄 鶴松：比嘉幸子 亀千代：湧川洋子 母：大城ナミ
供：宮里徹雄 嶋袋邦彦 鳥袋正堅 きゃうちゃこ持：比嘉あゆみ
歌・三線：渡名喜庸徳 平川善喜 長浜栄徳 當間嗣博 比嘉三男
箏：沢紙京子 上原貞子 笛：崎原盛次 太鼓：徳村昭一

※ 第13回自主公演(朝薫5番)1995年(平成7)3月5日 琉球新報ホール

組踊：女物狂 立方：玉城流琉扇會
人盗人：平田行正 男子：渡慶次真希 母：平田智之 座主：金城清
小僧：前當正雄 山入端實 童子：高江洲麻美子 桑江春香 神田牧子

- 歌・三線：平川善喜 新地孝一 糸数昌治 金城敏夫 宮城勝秀 伊波政雄
 箏：呉屋ミネ 佐渡山久江 笛：崎原盛次 太鼓：古宇利実
- 組踊：執心鐘入 立方：宮城流能造会
 若松：宮城茂雄 宿の女：宮城能葵 座主：宮城能史 鬼女：安仁屋葉子
 小僧：宇座仁一 上原章 宇座里枝
- 歌・三線：宮里健一 宮里秀明 宮里究一 大城英雄 名嘉山精健 源河朝仁
 箏：仲間頼子 野里葉子 笛：知念久光 太鼓：當山全考
- 組踊：孝行の巻 立方：玉城流琉扇會
 頭取：山入端實 高札持：前當正雄 おめけり：神田千代子
 おめなり：糸数弘子 母親：浜元良美 時之大屋子：金城清
 供：平田智之 前當正雄 小嶺雅春 上原忠彦
- 歌・三線：比嘉勇 山田義夫 玉栄真光 渡名喜庸徳 内間安勇 宇栄原宗真 鳥袋昌真
 箏：伊波治代子 名嘉真直子 笛：崎原盛次 太鼓：徳村昭一
- 組踊：銘苺子 立方：宮城流鳳乃会
 銘苺子：嘉手苺林一 天女：宮城能鳳 おめなり：比嘉陽花
 おめけり：平安名智夏 首里の御使：糸数昌益
 供：新垣悟 屋我秀樹 きょうちゃこ持：玉那覇チエ子
- 歌・三線：金城邦夫 銘苺正昌 新城栄一 宇根良健 宮里武廣 伊波正義
 箏：沢岨京子 知念佐代子 笛：崎原盛次 太鼓：仲地修仁
- 組踊：二童敵討 立方：親泊本流親扇会
 あまおへ：親泊久玄 鶴松：大城ナミ 亀千代：湧川洋子 母：比嘉律弘
 供：宮里徹雄 嶋袋邦彦 鳥袋正堅 きょうちゃこ持：玉城初子
- 歌・三線：長浜栄徳 當真嗣博 比嘉三男 嘉味田朝敬 屋良常雄 長浜眞雄
 箏：新垣智子 上原貞子 笛：知念久光 太鼓：古宇利実

※ 第14回自主公演 1996年(平成8)3月16日 具志川市民芸術劇場

- 舞踊：人盗人 八重瀬の萬歳 久志の萬歳
- 組踊：手水の縁 立方：宮城流能造会
 山戸：宮城茂雄 玉津：宮城能葵 志喜屋の大屋子：宮城能史
 山口の西掟：宇座仁一 門番：上原明 黒子：宇座里枝
- 歌・三線：宮城勝秀 比嘉三男 比嘉恒夫 伊波正義 吉元博昌
 箏：名嘉真直子 知花竹子 笛：崎原盛次 太鼓：金城朝教

※ 第15回自主公演 1997年(平成9)4月13日 具志川市民芸術劇場

- 組踊：二童敵討 立方：宮城流能造会
 あまおへ：宮城能史 鶴松：平田智之 亀千代：宇座仁一 母：日高悦子
 供：赤嶺治 親川良信 宮城茂雄 きょうちゃこ持：宇座理枝
- 歌・三線：名嘉山精健 大城英雄 糸洲朝一 宮城操 糸数善盛
 宮城武碩 宇根良健 佐久本嘉夫
 箏：米須幸子 金城貴美子 手登根廣美 笛：崎原盛勇 太鼓：金城朝教

組踊：大城崩 立方：親泊本流親扇会

大城若按司：比嘉幸子 外間の子：親泊久玄 供：親泊邦彦 比嘉吉保
虎千代：湧川洋子 金松：大久保香織 大里の按司のをなぢやら：大城ナミ

乳母：永吉静子 草切：鳥袋正堅 きゃうちゃこ持：玉城初子

歌・三線：吉本博昌 伊波政雄 屋良常雄 山城義明 宮城厚博

鳥袋功 比嘉康夫 上地賢一

箏：知花竹子 山川幸子 笛：知念久光 太鼓：田場典景

組踊：萬歳敵討 立方：宮城流鳳乃会

謝名の子：宮城能鳳 慶雲：嘉手苺林一 高平良御鎖：仲嶺伸吾 妻：糸数昌益

娘：新垣厚子 列女：古謝徳子 玉那覇チエ子 比嘉侑子 道行人：屋我秀樹

供：新垣悟 前原輝雄 きゃうちゃこ持：諸見里春代

歌・三線：源河朝仁 比嘉恒夫 高江州朝章 西村正吉 比嘉盛一

松田盛 新屋武 長浜眞勇

箏：米須キミ子 山内幸江 名嘉ヨシ子 笛：崎原盛勇 太鼓：金城朝教

組踊：伏山敵討 立方：玉城流琉扇會

富盛大主：平田行正 棚原の若按司虎松：神田千代子 弟亀千代：普久原涼子

母：座安栄子 天願の按司：金城清 平安座大主：奥浜真一郎

平安名大主：具志堅朝堅 石川の比屋：山入端稔 狩人：前當正雄 供：小嶺雅春

歌・三線：内間安勇 宮城勝秀 宮里武廣 新城康弘 宇栄原宗真

鳥袋昌真 又吉章盛 伊波正義

箏：名嘉真直子 佐渡山久江 伊禮紀美子 笛：知念久光 太鼓：金城睦昭

※ 第16回自主公演 1998年(平成10)3月29日 具志川市民芸術劇場

組踊：手水の緑 立方：宮城流鳳乃会

山戸：嘉手苺林一 玉津：宮城能鳳 志喜屋の大屋子：糸数昌益

山口の西掟：屋我秀樹 門番：新垣悟 後見：嘉手苺幸代

歌・三線：松田盛 比嘉盛一 鳥袋功 新屋武 吉元博昌 大宜見朝和

箏：名嘉真直子 手登根廣美 佐渡山久江 伊禮紀美子 知花竹子

笛：知念久光 胡弓：崎原盛勇 太鼓：田場典景

組踊：花売の緑(抜粋) 立方：親泊本流親扇会

森川の子：親泊久玄 乙樽：親泊邦彦 鶴松：上原麻利恵

歌・三線：佐久本嘉夫 又吉章盛 新城康弘 高江洲朝章 糸洲朝一 糸数善盛

箏：米須幸子 米須キミ子 笛：崎原盛勇 太鼓：金城朝教

組踊：女物狂(抜粋) 立方：玉城流琉扇會

狂女：平田智之 男子：渡慶次翔子 座主：平田行正

小僧：具志堅朝堅 前當正雄 童子：名嘉山華恵 渡嘉敷雪乃 名嘉真美幸

歌・三線：西村正吉 宮城厚博 比嘉康夫 宮城操 名渡山謙一 上地賢一

箏：山川幸子 山内幸枝 笛：崎原盛勇 太鼓：金城睦昭

舞踊：伊野波節 諸屯 花風

※ 第17回自主公演 1999年(平成11)3月28日 琉球新報ホール

舞踊：金細工

組踊：手水の縁 立方：宮城流能造会

山戸：宇座仁一 玉津：宮城茂雄 志喜屋の大屋子：宮城能史

山口の西掟：赤嶺治 門番：上原明

歌・三線：糸洲朝一 佐久本嘉夫 又吉章盛 金城繁 新城康弘 宮城操

箏：知花竹子 山内幸枝 笛：崎原盛勇 太鼓：金城朝教

舞踊：しゅんどう

組踊：萬歳敵討 立方：玉城流琉扇會

謝名の子：具志堅朝堅 慶雲：平田智之 高平良宇鎮：山入端實 妻：座安栄子

娘：神田千代子 列女：糸数弘子 国吉ゆりえ 仲里美香

通行人：平田行正 供：前當正雄 きゃうちゃこ持：前當笑子

歌・三線：新屋武 銘苺盛隆 畔上泰治 糸数善盛 名渡山兼一 神田久男

箏：銘苺君子 名嘉ヨシ子 笛：崎原盛勇 太鼓：金城睦昭

舞踊：加那ヨ一 天川

※ 第18回自主公演(朝薫5番) 2000年(平成12)3月26日 具志川市民芸術劇場

組踊：執心鐘入 立方：親泊本流親扇會

若松：親泊邦彦 宿の女：大城ナミ 座主：親泊久玄 鬼女：大城ナミ

小僧：鳥袋正堅 當山力 湧川洋子 後見：仲田あやの

歌・三線：又吉章盛 前當正範 比嘉盛一 新屋武 上地賢一 目取真興義

箏：金城貴美子 安里るり子 名嘉ヨシ子 笛：崎原盛勇 太鼓：田場典景

組踊：銘苺子 立方：宮城能鳳組踊研究会

銘苺子：石川直也 天女：宮城能鳳 おめなり：辺土名友樹 おめけり：宮城聖乃

上使：嘉手苺林一 供：前原輝雄 具志幸大

きゃうちゃこ持：呉屋智 後見：玉城義和

歌・三線：吉元博昌 鳥袋功 城間辰彦 宮城厚博 大宜見朝和 我那覇好良

箏：知花竹子 山川幸子 笛：崎原盛次 太鼓：金城睦昭

組踊：女物狂 立方：玉城流琉扇會

人盗人：平田智之 男子：山内希恵 座主：平田行正 母：神田千代子

小僧：赤嶺清吉 山入端實 童子：金城杏奈 平安山園佳 山内美佳

歌・三線：佐久本嘉夫 金城繁 比嘉恒夫 糸数善盛 銘苺盛隆 神田久男

箏：手登根廣美 米須キミ子 笛：崎原盛勇 太鼓：金城睦昭

組踊：孝行の巻 立方：宮城能鳳組踊研究会

頭取：嘉手苺林一 高札持：呉屋智 男子：阿嘉修(賛助) 女子：新垣悟

母：糸数昌益 時之大屋子：高江洲清勝(賛助)

供：前原輝雄 具志幸大 玉城良和 呉屋智

歌・三線：松田盛 高江洲朝章 名渡山兼一 新里光雄 畔上泰治 饒波正廣

箏：伊禮紀美子 銘苺君子 笛：崎原盛次 太鼓：金城朝教

組踊：二童敵討 立方：宮城流能造組踊研究会

あまおへ：宇座仁一 鶴松：宮城能葵 亀千代：宇座里枝 母親：安仁屋葉子
供：宮城茂雄 上原明 赤嶺治 きょうちゃこ持：宇座一志
歌・三線：西村正吉 比嘉康夫 宮城武碩 當真正義 安次嶺優 西平守進
箏：山内幸枝 米須幸子 笛：崎原盛勇 太鼓：金城朝教

※ 第19回自主公演 2001年(平成13)3月4日 読谷文化センター鳳ホール

齊唱：稲まづん節・早作田節

舞踊：かせかけ 前之浜

組踊：花売の縁 立方：玉城流琉扇會

森川の子：平田智之 乙樽：神田千代子 鶴松：山内希恵 猿引：平田行正

猿：山内みか 薪木取：山入端實 後見：名嘉真美幸 渡慶次翔子

歌・三線：大宜見朝和 真栄喜清次 上地賢一 大城信榮 多和田眞一 名嘉真清栄

箏：伊波加代子 比嘉千咲 笛：崎原盛勇 胡弓：仲本紀夫 太鼓：奥間政仁

舞踊：鳩間節 花風 八重瀬の萬歳

組踊：手水の縁 立方：宮城流鳳乃会宮城能鳳組踊研究会

山戸：東江裕吉 玉津：新垣悟 志喜屋の大屋子：嘉手苺林一

山口の西掟：糸数昌益 門番：呉屋智 後見：嘉手苺幸代

歌・三線：比嘉盛一 鳥袋進考 安次嶺優 江洲眞徳 仲村昇明 久場良昌

箏：銘苺君子 中山民子 笛：崎原盛勇 胡弓：仲本紀夫 太鼓：浜田昌健

※ 第20回自主公演 2002年(平成14)3月31日 読谷文化センター鳳ホール

齊唱：稲まづん節・早作田節

舞踊：鳩間節

組踊：萬歳敵討 立方：宮城流能造組踊研究会

謝名の子：宇座仁一 慶雲：宮城茂雄 高平良御鎮：赤嶺清吉

真鍋樽：八柳久仁子 娘：宇座里恵 列女：山根初美 當眞かやの 安仁屋葉子

供：上原明 宇座一志 道行人：宮城能史 きょうちゃこ持：西新田恵梨子

歌・三線：大宜見朝和 城間辰彦 大城信榮 江洲眞徳 當真正義

箏：安里るり子 富山初子 笛：崎原盛勇 胡弓：伊波政光 太鼓：浜田昌健

舞踊：梅の香り 汀間当 谷茶前

組踊：女物狂 立方：親泊久玄組踊会

人盗人：親泊久玄 男子：上間さつき 母：大城ナミ 座主：比嘉丈芳

小僧：親泊邦彦 當山力 童子：金城ことき 當眞梨絵 玻名城レネ

歌・三線：銘苺盛隆 神田久男 安次嶺優 目取真興義 真栄喜清次

箏：宮城ミサ子 与座末子 胡弓：伊波政光 太鼓：山城和正

※ 第21回自主公演(朝薫5番) 2003年(平成15)3月23日 読谷村文化センター鳳ホール

組踊：執心鐘入 立方：宮城能史組踊研究会

若松：山根初美 宿の女：安仁屋葉子 座主：宇座仁一 鬼女：安仁屋葉子

小僧：赤嶺清吉 宇座一志 宇座里枝 後見：八柳久仁子

歌・三線：我那覇好良 金城繁 金城本幸 嘉納啓介 仲田末好 上原政市 具志堅吉秀
箏：富山初子 比嘉千咲 名嘉ハツ
笛：崎原盛勇 胡弓：仲本紀夫 太鼓：奥間政仁

組踊：銘苺子 立方：玉城流琉扇會

銘苺子：平田智之 天女：神田千代子 おめなり：山内希恵 おめけり：山内美佳
上使：山入端實 供：前當正雄 平田行正
きゃうちゃこ持：渡慶次翔子 後見：名嘉真美幸

歌・三線：仲尾善勝 伊波政光 大城信榮 鳥袋進行 金城眞榮 佐喜眞光雄
箏：高江洲初子 天久洋子 比嘉キミ子
笛：崎原盛次 胡弓：仲本紀夫 太鼓：神村貞一

組踊：女物狂 立方：親泊本流親扇會

人盗人：親泊久玄 男子：上間五月 座主：比嘉丈芳 母親：大城ナミ
小僧：當山力 親泊邦彦 童子：當眞さつき 長嶺妃 當眞梨絵

歌・三線：内間悦子 山内ルリ子 上運天幸江
歌・箏：安里るり子 銘苺君子 中山民子 宮城ミサ子
笛：崎原盛勇 胡弓：仲本紀夫 太鼓：山城和正

組踊：孝行の巻 立方：宮城能鳳組踊研究会

頭取：大田守邦 高札持：呉屋智 おめなり：新垣悟 おめけり：東江裕吉
母親：糸数昌益 時之大屋子：嘉手苺林一
供：前原輝雄 石川直也 宮城昭博 具志幸大

歌・三線：新里光雄 仲村昇明 眞榮喜清次 名嘉眞清榮 平良春吉
箏：石川菅子 神谷和枝 笛：崎原盛次 胡弓：仲本紀夫 太鼓：浜田昌健

組踊：二童敵討 立方：宮城能史組踊研究会

あまおへ：宇座仁一 鶴松：宮城茂雄 亀千代：嘉数道彦 母親：安仁屋葉子
供：赤嶺清吉 宇座一志 上原明 きゃうちゃこ持：西新田恵梨

歌・三線：西平守進 与志平朝得 江洲眞徳 金城光信 与座朝明 前川元
箏：与座末子 新屋のり子 石川峯子
笛：崎原盛勇 胡弓：仲本紀夫 太鼓：奥間政仁

※ 第22回自主公演 2004年(平成16)4月18日 国立劇場おきなわ小劇場

舞踊：天川節乃踊

組踊：執心鐘入 立方：宮城本流鳳乃会 宮城能鳳組踊研究会

若松：山城亜矢乃 宿の女：伊佐綾子 座主：大田守邦
小僧：新垣悟 宮城昭博 呉屋智
鬼女：伊佐綾子 具志幸大(鐘入り) 後見：嘉手苺林一

歌・三線：内間悦子 山内ルリ子 上運天幸江

歌・箏：中山民子 宮城ミサ子 与座末子
笛：喜友名隆 胡弓：奥間政仁 太鼓：神村貞一

舞踊：柳節の踊

組踊：女物狂 立方：親泊本流親扇會 親泊久玄組踊會

人盗人：親泊久玄 男子：安里菜美 母親：親泊邦彦 座主：比嘉丈芳
小僧：當山力 真境名律弘 童子：金城ことき 當山麗菜 我喜屋惠
歌・三線：金城光信 与志平朝徳 大城信榮 金城眞榮 与座朝明 前川元
箏：高江洲初子 石川菅子 比嘉千咲
笛：上原政市 胡弓：仲本紀夫 太鼓：浜田昌健

舞踊：しゅんどう

組踊：二童敵討 立方：宮城元流能史之会 宮城能史組踊研究会

あまおへ：宇座仁一 鶴松：宮城茂雄 亀千代：嘉数道彦 母親：伊波正江
供：赤嶺清吉 宇座一志 上原明 きゃうちゃこ持：上原崇弘

歌・三線：仲尾善勝 鳥袋進考 眞榮喜清次 佐喜眞光雄 具志堅吉秀 上原政市
箏：天久洋子 富山初子 神谷和枝
笛：喜友名隆 胡弓：仲本紀夫 太鼓：山城和正

※ 第23回自主公演（朝薫5番）2005年（平成17）3月20日 勝連町きむたかホール

齊唱：ちゃんな節・大兼久節

組踊：銘苺子 立方：宮城本流鳳乃会 宮城能鳳組踊研究会

銘苺子：東江裕吉 天女：新垣悟 おめなり：又吉麻乃 おめきり：平良棟子
首里の御使：嘉手苺林一 供：糸数昌益 前原輝雄
きゃうちゃこ持：呉屋智 後見：嘉手苺幸代

歌・三線：金城光信 与志平朝得 眞榮喜清次 江洲眞徳 与座朝明 前川元
箏：宮城ミサ子 与座末子 笛：崎原盛勇 胡弓：仲本紀夫 太鼓：浜田昌健

組踊：執心鐘入 立方：玉城流翠扇会 金城清一組踊琉舞道場

中城若松：上地美智子 宿の女：藤田佳子 座主：金城清一 鬼女：藤田佳子
小僧：糸満盛幸 西門悠雅 與儀暁裕 後見：上地元美

歌・三線：平良春吉 仲村昇明 多和田眞一 伊波政光 大城信榮
箏：天久洋子 石川管子 笛：崎原盛勇 胡弓：仲本紀夫 太鼓：奥間政仁

組踊：女物狂 立方：玉城流平田本流琉扇會 平田行正琉舞道場

人盗人：平田智之 男子：知花有紗 母親：神田千代子 座主：平田行正
小僧：山入端實 具志堅朝堅 童子：新里麻奈津 佐伯聖奈 眞眞沙杏美
後見：岸本恵乃

歌・三線：鳥袋進考 金城本幸 仲田末好 具志堅吉秀 上原政市

箏：當山初子 石川峯子 笛：崎原盛勇 胡弓：奥間政仁 太鼓：山城和正

組踊：孝行の巻 立方：宮城元流能史乃会 宮城能史組踊研究会

頭取：宇座仁一 高札持：宇座一志 おめけり：米みゆき おめなり：山根初美
母親：嘉数道彦 時之大屋子：川上勝一
供：赤嶺清吉 宇座一志 宜保秀明 座安朝秀

歌・三線：仲尾善勝 金城眞榮 野村朝常 内間悦子 山内ルリ子 上運天幸江

箏：中山民子 前田理子 笛：上原政市 胡弓：伊波政光 太鼓：浜田昌健

組踊：二童敵討 立方：親泊本流親扇会 親泊久玄組踊会

あまおへ：親泊久玄 鶴松：大城ナミ 亀千代：湧川洋子 母親：真境名律弘

供：伊野波盛人 當山力 親泊邦彦 きゃうちゃこ持：比嘉吉保
歌・三線：宮城豊 名嘉真清栄 佐喜真光雄 新里好清 鳥袋勝治
箏：高江州初子 名嘉ハツ 笛：上原政市 胡弓：仲本紀夫 太鼓：奥間政仁

※ 第24回自主公演 2006年(平成18)3月12日 うるま市石川会館

齊唱：天川節・ちるれん節

組踊：萬歳敵討 立方：玉城流翠扇会 金城清一組踊琉舞道場

謝名の子：糸満盛幸 慶雲：大城常正 高平良御鎮：神谷清一

妻：玉城敦子 娘：上地美智子 列女：上地弘己江 玉城海咲 金城舞

供：西門悠雅 嘉陽田朝裕 通行人：金城清一 きゃうちゃこ持：上地元美

歌・三線：仲村昇明 具志堅吉秀 新里好清 仲田末好 鳥袋勝治

箏：名嘉ハツ 田島美智子 安里恵美子 大城喜美子

笛：崎原盛次 胡弓：奥間政仁 太鼓：山城和正

独唱：仲間節 歌・三線：仲村昇明 箏：外當光子

独唱：仲村渠節 歌・三線：山内ルリ子 箏：幸地安子

独唱：赤田風節 歌・三線：内間悦子 箏：我喜屋孝子

組踊：女物狂 立方：玉城流琉扇會 平田行正琉舞道場

人盗人：平田智之 男子：知花有紗 母親：神田千代子

座主：平田行正 小僧：具志堅朝堅 山入端實

童子：佐伯聖奈 福里有須 金城日菜子 後見：岸本恵乃

歌・三線：佐喜真光雄 前川元 上原政市 与座朝明 野村朝常 内間清彦

箏：比嘉キミ子 玉城明子 長浜まさ子

笛：崎原盛次 胡弓：山城和正 太鼓：登川清子

組踊：手水の縁 立方：親泊本流親扇会 親泊久玄組踊会

山戸：親泊邦彦 玉津：真境名律弘 志喜屋の大屋子：親泊久玄

山口の西掟：伊野波盛人 門番：當山力

歌・三線：内間悦子 山内ルリ子 上運天幸江 宮城豊 仲宗根朝儀 上地弘光

歌・箏：新屋のり子 神谷和枝 石川峯子 前田理子

笛：上原政市 胡弓：奥間政仁 太鼓：亀谷スミ子

※ 第25回自主公演 2007年(平成19)3月18日 うるま市石川会館

齊唱：揚作田節・東里節・赤田花風節

組踊：執心鐘入 立方：宮城本流鳳乃会 宮城能鳳組踊研究会

中城若松：具志幸大 宿の女：新垣悟 座主：嘉手苺林一 鬼女：新垣悟

小僧：川満香多 宮城昭博 呉屋智 後見：糸数昌益 嘉手苺幸代

歌・三線：内間清彦 仲宗根朝儀 上地弘光 比嘉勝 山城正俊 崎濱秀光

箏：田島美智子 長浜まさ子 大城喜美子

笛：崎原盛勇 胡弓：奥間政仁 太鼓：松田弘

組踊：二童敵討 立方：玉城流金城清一組踊会

あまおへ：宇座仁一 鶴松：玉城敦子 亀千代：上地美智子 母親：鳥袋正子

供：糸満盛幸 大城常政 西門悠雅 きゃうちゃこ持：大城莎都稀
歌・三線：仲田末好 上運天幸江 宮城豊 鳥袋勝治 宮平良廣
箏：比嘉キミ子 神谷和枝 前田理子
笛：崎原盛勇 胡弓：奥間政仁 太鼓：玉山正和
組踊：花壳の縁 立方：親泊久玄組踊会
森川の子：真境名律弘 乙樽：親泊邦彦 鶴松：松田ゆめ野
猿引：當山力 猿：上江洲吉香 薪木取：親泊久玄
歌・三線：与座朝明 佐喜眞光雄 上原政市 具志堅吉秀 前川元
箏：新屋のり子 石川峯子 名嘉ハツ
笛：崎原盛勇 胡弓：奥間政仁 太鼓：登川清子

※ 第26回自主公演 2008年(平成20)3月16日 うるま市民芸術劇場

組踊：執心鐘入 立方：玉城流琉扇會 平田行正琉舞・組踊道場
中城若松：大城絵美 宿の女：神田千代子 座主：座安栄子 鬼女：神田千代子
小僧：宮城明日香 比嘉愛 松本清子 後見：池田沙紀
歌・箏：安里恵美子 長浜まさ子 仲田キヨ子 田島美智子 知念利恵子
仲本美也子 山田愛
笛：上原政市 胡弓：鳥袋菊枝 太鼓：登川清子
組踊：孝行の巻 立方：玉城流翠扇會 金城清一組踊・琉舞道場
頭取：金城清一 男子：西村綾乃 女子：玉城敦子 母：鳥袋正子
時之大屋子：糸満盛幸 供：大城常政 西門悠雅 玉城匠 金城舞
歌・三線：野村朝常 宮城豊 宮平良廣 親川武重 又吉浩
箏：我喜屋孝子 大城喜美子 笛：上原政市 胡弓：鳥袋菊江 太鼓：亀谷スミ子
組踊：手水の縁 立方：親泊本流親扇會 親泊久玄組踊会
山戸：親泊邦彦 玉津：真境名律弘 志喜屋の大屋子：親泊久玄
山口の西掟：當山力 門番：比嘉吉保
歌・三線：鳥袋勝治 仲宗根朝儀 上地弘光 内間清彦 比嘉勝
山城正俊 崎濱秀光
箏：前田理子 幸地安子 外當光子 笛：上原政市 胡弓：鳥袋菊江 太鼓：松田弘

※ 第27回自主公演 2009年(平成21)3月8日 読谷村文化センター鳳ホール

舞踊：稲まづん節之踊り
組踊：女物狂 立方：宮城流鳳乃会 宮城能鳳組踊・琉舞研究所
人盗人：石川直也 鶴松：知花令磨 母：東江裕吉 座主：嘉手苺林一
小僧：呉屋智 新垣悟 童子：金城裕斗 山城峻称 平良憩暉
後見：嘉手苺幸代 山城亜矢乃
歌・三線：崎濱秀光 比嘉勝 宮平良廣 親川武重 山城善吉
箏：外當光子 仲本美也子 西村富子
笛：上原政市 胡弓：鳥袋菊江 太鼓：亀谷スミ子
創作舞踊組踊：月下美人 立方：宮城流朱之会 古謝弘子組踊舞会

歌・三線：内間清彦 仲宗根朝儀 上地弘光 山城正俊 久場良厚
 箏：我喜屋孝子 仲田キヨ子 小底明美 笛：上原政市 胡弓：鳥袋菊江
 組踊：手水の縁 立方：玉城流翠扇会 金城清一組踊・琉舞道場
 山戸：金城しの 玉津：玉城敦子 志喜屋の大屋子：金城清一
 山口の西掟：前當正雄 門番：名嘉正光 後見：大城実優
 歌・三線：宮城豊 野村朝常 鳥袋勝治 新里好清 比嘉秀昭
 箏：長浜まさ子 幸地安子 玉城明子 知念利恵子
 笛：上原政市 胡弓：鳥袋菊江 太鼓：玉山正和

※ 第28回自主公演（組踊世界遺産登録記念）2011年（平成23）4月17日 国立劇場おきなわ

舞踊：柳節之踊り
 組踊：女物狂 立方：宮城流朱之会美風古謝弘子組踊舞会
 人盗人：平田智之 男子：宮城百望 母：宮城尚子 座主：宇座仁一
 小僧：山入端實 兼本利輝 童子：渡慶次祥矢 照屋あすか 宮城永羽
 歌・三線：山城善吉 久場良厚 玉城敦男 東江司 濱里長希 渡慶次淳 大城直人
 箏：仲本美也子 知念利恵子 笛：内間茂子 胡弓：生田順子 太鼓：玉山正和
 舞踊：本貫花之踊り むんじゅる 八重瀬の萬歳
 独唱 百名節 白鳥節 世渡節
 歌・三線：上西真理 仲大千咲 照屋早月
 箏：城間初子 宮城敬子 小底明美
 組踊：手水の縁 立方：宮城本流鳳乃会 宮城能鳳組踊研究会
 山戸：東江裕吉 玉津：新垣悟 志喜屋の大屋子：石川直也
 山口の西掟：呉屋智 門番：嘉手苺林一 後見：嘉手苺幸代
 歌・三線：崎濱秀光 比嘉勝 比嘉秀昭 山城正俊
 箏：山田愛 小底明美 笛：喜友名隆 胡弓：鳥袋菊江 太鼓：護得久枝美
 舞踊：加那ヨ一 天川

※ 第29回自主公演（えにし）2012年（平成24）4月8日 読谷村文化センター鳳ホール

舞踊：稲まづん節
 独唱 本調子：遊諸屯節 本赤田花風節
 歌・三線：倉原智子 上西真理
 箏：上間春美 伊波リン子
 独唱 二揚：古見之浦節 述懐節
 歌・三線：大城直人 濱里長希
 箏：城間初子 仲田キヨ子
 組踊：女物狂 立方：宮城本流鳳乃会家元宮城能鳳 宮城能鳳組踊・琉舞研究所
 人盗人：石川直也 男子：山内昌臣 母：新垣悟 座主：嘉手苺林一
 小僧：山城峻称 知花令磨 童子：伊波心 古堅聖也 古堅聖尚
 歌・三線：仲大千咲 比嘉いつみ 池原敦子 小谷恵里子 照屋早月
 箏：小底明美 佐和田タミ子 宮城敬子 大城裕里加

笛：上原政市 胡弓：生田順子 太鼓：小濱幸子
組踊：花壳の縁 立方：親泊本流親扇会 親泊久玄組踊研修会
森川の子：真境名律弘 乙樽：親泊邦彦 鶴松：荻堂柚希
猿引：當山力 猿：山入端依莉 薪木取：親泊久玄
歌・三線：親川武重 久場良厚 山城善吉 宮城盛治 新垣考榮
比嘉秀春 玉城敦男 当銘由亮
箏：知念利恵子 仲本美也子 山田愛 西村富子
笛：喜友名隆 胡弓：渡慶次紀子 太鼓：護得久枝美
舞踊：汀間当 本嘉手久 揚作田 加那ヨ一天川

※ 第30回自主公演 (朝薫5番) 2013年(平成25)4月7日 うるま市民芸術劇場

組踊：銘苺子 立方：宮城本流鳳乃会 宮城能鳳組踊研究会
銘苺子：東江裕吉 天女：新垣悟 おめなり：伊波心 おめけり：鳥袋由妃
上使：石川直也 供：知花令磨 金城裕斗 きょうちゃこ持：山城峻称
歌・三線：當山巳和 池原敦子 照屋早月 倉原智子 小谷恵理子
松川治美 山城綾子 伊計秀子
箏：西村富子 小底明美 長嶺愛美
笛：東江司 胡弓：比嘉紀子 太鼓：護得久枝美
組踊：執心鐘入 立方：玉城流翠扇会 金城清一組踊研究所
中城若松：玉城匠 宿の女：西門悠雅 座主：田口博章 鬼女：西門悠雅
小僧：具志堅朝堅 大城常政 平敷勇也 後見：砂川美鈴
歌・三線：下地康雄 宮城盛治 赤嶺勝巳 大城直人 板良敷武
箏：城間初子 稲福貴子 笛：上原政市 胡弓：伊禮薫 太鼓：仲榊雅秀
組踊：女物狂 立方：玉城流琉扇會 平田行正琉舞・組踊道場
々：宮城元流能史之会宮城能史組踊研究会
人盗人：平田智之 男子：神田結菜 母：神田千代子 座主：宇座仁一
小僧：具志堅朝堅 嘉数道彦 童子：上原レイ 赤嶺花 砂川仁来
歌・三線：比嘉いつみ 仲大千咲 上西真理 山城艶子 比嘉シゲ子 伊良波ゆかり
箏：大城裕里加 宮里信子 笛：喜友名隆 胡弓：生田順子 太鼓：桃原隆
組踊：孝行の巻 立方：宮城本流鳳乃会 宮城能鳳組踊研究会
頭取：石川直也 高札持：知花令磨 おめなり：山城亜矢乃 おめけり：新里春加
母：新垣悟 時之大屋子：嘉手苺林一 供：知花令磨 金城裕斗 山城峻称 比嘉勝之
舵操作：東江裕吉 後見：嘉手苺幸代
歌・三線：比嘉秀春 新垣考榮 東江司 濱里長希 渡慶次淳 大城松榮
城間盛太 伊禮薫
箏：伊波リン子 上間春美 前田さやか
笛：上原政市 胡弓：比嘉紀子 太鼓：小濱幸子
組踊：二童敵討 立方：親泊本流親扇会 親泊久玄組踊研修会
あまおへ：親泊久玄 鶴松：親泊邦彦 亀千代：金城真次 母：真境名律弘
供：稲福清彦 比嘉吉保 當山力 きょうちゃこ持：兒玉絵理子

歌・三線：山城善吉 久場良厚 玉城敦男 比嘉剛 当銘由亮 伊計和夫
 箏：佐和田タミ子 宮城敬子 笛：喜友名隆 胡弓：生田順子 太鼓：護得久枝美

※ 第31回自主公演 2014年(平成26)4月6日 うるま市石川会館

舞踊：稲まづん節

組踊：花売の縁 立方：親泊本流親扇会 二代目家元親泊興照組踊研修会

森川の子：真境名律弘 乙樽：親泊久玄 鶴松：松田ゆめ野

猿引き：當山力 猿：山入端依莉 薪木取：親泊興照 後見：親泊洋子

歌・三線：比嘉いつみ 仲大千咲 當山巳和 上西真理 山城艶子 松川治美

箏：上間春美 稲福貴子 宮里信子 平利恵子

笛：東江司 胡弓：比嘉紀子 太鼓：桃原隆

舞踊：かせかけ

組踊：手水の縁 立方：宮城本流鳳乃会家元 宮城能鳳組踊研究会

山戸：新里春加 玉津：山城亜矢乃 志喜屋の大屋子：石川直也

山口の西掟：新垣悟 門番：嘉手苺林一 後見：嘉手苺幸代

歌・三線：下地康雄 玉城敦男 宮城盛治 比嘉秀春 新垣考榮

濱里長希 大城直人 大城松栄 比嘉剛

箏：宮城敬子 城間初子 大城祐里加 前田さやか

笛：喜友名隆 胡弓：伊禮薫 太鼓：仲舛雅秀

舞踊：花笠踊 鳩間節 黒鳥口説

1977年 (昭和52)	1979年 (昭和54)	1981年 (昭和56)	1992年 (平成4)	2002年 (平成14)	2013年 (平成25)
組研発足	第1回自主 公演	組織会則完成	第10回自主 公演	第20回自主 公演	第30回自主 公演

野村流音楽協会組踊地謡研修部舞踊地謡研修部合同発表会記録

※ 第1回合同発表会 宜野湾市民会館 1986年(昭和61)10月18日

独唱(本調子)

仲間節 歌・三線：波平憲宏 箏：波平エミ子

仲村渠節 歌・三線：渡慶次賀正 箏：又吉八重子

赤田風節 歌・三線：比嘉常俊 箏：栄野川春子

独唱(二揚)

散山節 歌・三線：仲嶺朝信 箏：上地律子

仲風節 歌・三線：大城朝徳 箏：佐次田シズ子

述懐節 歌・三線：照屋勝義 箏：新城幸子

組踊：花壳の縁 立方：宮城能造組踊研究会

森川の子：宮城能風 乙樽：宮城能葵 鶴松：川満真理子

薪木取：宮城能史 猿引：海勢頭あける 猿：宇座里枝

歌・三線：金城昌吉 嶺井政順 銘苺良光 金城正助 山城富市 真壁朝慶

箏：又吉八重子 松堂和子

笛：小浜義光 太鼓：奥間貞広

※ 第2回合同発表会 宜野湾市民会館 1987年(昭和62)11月29日

(組踊地謡研修部創立10周年記念公演と同日開催、記念公演は昼、合同公演は夜)

組踊：忠臣義勇 立方：親泊本流親扇会

仲嶺之若按司：比嘉幸子 思姉：平八重子 栄野比大主：親川良信

川崎之比屋：比嘉丈芳 百姓：比嘉一男 大里之按司：親泊久玄

女舞子：大城美智子 宇良好美 湧川洋子 平良さとみ

きゃうちやく持：山端千賀子 平安座大主：宮里徹雄

供：鳥袋正堅 比嘉清

歌・三線：比嘉謙次 嶺井政順 諸見川和男 玉城三夫 平良輝雄 与那嶺光雄

箏：松堂和子 佐次田シズ子

笛：金城裕芳 胡弓：崎原盛勇 太鼓：奥間貞広

※ 第3回合同発表会 嘉手納町民会館 1988年(昭和63)7月10日

独唱(本調子)

仲村渠節 歌・三線：玉城三夫 箏：松堂和子

仲風節 歌・三線：金城昌吉 箏：呉屋栄子

述懐節 歌・三線：平良輝雄 箏：栄野川春子

独唱(二揚)

散山節 歌・三線：石川親助 箏：上地律子

下出し仲風節 歌・三線：目取真永良 箏：佐次田シズ子

下出し述懐節 歌・三線：山城富一 箏：又吉八重子

組踊：女物狂 立方：親泊流親扇会

盗人：親泊久玄 男子：宮城円 母：稲嶺たつ子 座主：比嘉丈芳
小僧：宮里徹雄 親川良信 童子：比嘉幸子 大城美智子 湧川洋子
歌・三線：比嘉謙次 諸見川和男 牧門武男 高江洲昌市 喜屋武清 松田栄正
箏：東江朝子 波平エミ子
笛：金城裕芳 胡弓：崎原盛勇 太鼓：奥間貞広

※ 第4回合同発表会 琉球新報ホール 1989年(平成元年)11月26日

組踊：執心鐘入 立方：宮城能造組踊研究会

若松：宮城能舞 宿の女：宮城能葵 座主：宮城能史

小僧：赤嶺治 上原あけみ 宮城能香 鬼女：宮城能麗

歌・三線：平良輝雄 宮城澄雄 目取真永良 嶺井政順 玉城三夫

箏：栄野川春子 波平エミ子

笛：金城裕芳 胡弓：崎原盛勇 太鼓：安座間保盛

組踊：二童敵討 立方：玉賜会

あまおへ：真喜志康忠 鶴松：金城清一 亀千代：具志堅朝堅

母：嘉数好子 供：宮城貞一 平田智之 平田行正

きゃうちやく持：嘉数美智子

歌・三線：諸見川和男 沢紙安松 平良薫 上原三郎 与那嶺光男

箏：松堂和子 東江朝子

笛：金城裕芳 胡弓：崎原盛勇 太鼓：屋我平光

※ 第5回合同発表会 石川市民会館 1990年(平成2)11月25日

組踊：女物狂 立方：玉城流玉賜会

人盗人：平田行正 男子：喜友名あやの 母：平良富士子

座主：金城清一 小僧：平田智之 金城清

童子：鳥袋綾乃 渡慶次顕子 渡慶次夏美

歌・三線：喜屋武清 仲村渠春考 松田栄正 玉城巖 仲順利治 平良昭隆

箏：砂辺米子 伊波治代子

笛：崎原盛次 太鼓：古宇利実

組踊：二童敵討 立方：親泊流親扇会

あまおへ：親泊久玄 鶴松：比嘉幸子 亀千代：大城美智子

母：比嘉丈芳 供：宮里徹雄 鳥袋正堅 親川良信

きゃうちやく持：比嘉あゆみ

歌・三線：鳥袋清信 池原憲勝 城間盛秋 上間克美 金城稔 小浜源政

箏：比嘉陽子 沢紙京子

笛：崎原盛勇 太鼓：徳村昭一

※ 第6回合同発表会 嘉手納町民会館 1991年(平成3)11月24日

組踊：執心鐘入 立方：宮城流能史会

若松：屋嘉昌子 宿の女：大庭フジ子 座主：宮城能史

小僧：赤嶺治 上原明 宮城茂雄 鬼女：安仁屋葉子
歌・三線：高江洲昌一 松田栄正 新地孝一 池原憲勝 山田義夫
箏：新垣智子 伊波治代子
笛：崎原盛次 太鼓：古宇利実
独唱：手水の縁 唱え：糸数昌益 宮城流能鳳会（立方はなし、歌は独唱のみ抜粋）
干瀬節 歌・三線：宮里秀明 箏：知念佐代子
子持節 歌・三線：當真嗣博 箏：上原貞子
散山節 歌・三線：平川善喜 箏：沢岷京子
仲風節 歌・三線：城間盛秋 箏：呉屋ミネ
述懐節 歌・三線：牧門武男 箏：砂辺米子

※ 第7回合同発表会 宜野湾市民会館 1992年(平成4)11月29日

組踊：萬歳敵討 立方：玉城流玉賜会
謝名の子：平田行正 慶雲：具志堅朝堅 高平良御鎮：真喜志康忠
妻：浜元良美 娘：平良富士子 列女：内間勝美 伊礼京子
道行人：金城清 供：山入端實 平田智之
きょうちゃこ持：呉屋ひとみ
歌・三線：宮里健一 松川亭 金城敏夫 比嘉勇 屋良常雄 伊波正義
箏：新垣智子 上原貞子
笛：崎原盛次 太鼓：徳村昭一
組踊：執心鐘入 立方：宮城能鳳組踊研究会
若松：嘉手苺林一 宿の女：糸数昌益 座主：海勢頭あける
小僧：赤嶺繁明 石川直也 根路銘広美 鬼女：糸数昌益
歌・三線：大城英雄 源河朝仁 渡名喜庸徳 宇栄原宗真 新地孝一 比嘉三男
箏：知念佐代子 呉屋ミネ
笛：崎原盛次 太鼓：當山全考

※ 第8回合同発表会 石川市民会館 1993年(平成5)11月28日

組踊：手水の縁 立方：宮城流鳳乃会
山戸：嘉手苺林一 玉津：海勢頭あける 志喜屋の大屋子：糸数昌益
山口の西掟：屋我秀樹 門番：阿嘉修
歌・三線：玉栄真光 宮里究一 伊波政雄 平川善喜 比嘉勇
箏：新垣智子 伊波治代子
笛：崎原盛次 太鼓：仲地修仁
組踊：二童敵討 立方：親泊本流親扇会
あまおへ：親泊久玄 鶴松：比嘉幸子 亀千代：湧川洋子
母：大城ナミ 供：宮里徹雄 比嘉吉保 烏袋正堅
歌・三線：當真嗣博 長浜栄徳 比嘉三男 山田義夫 嘉味田朝敬
箏：上原貞子 呉屋ミネ
笛：崎原盛次 太鼓：古宇利実

※ 第9回合同発表会 沖縄市民会館 1994年(平成6)11月27日

組踊：女物狂 立方：宮城流能造会

人盗人：宮城能史 男子：宇座一志 母：宮城能葵 座主：宇座仁一

小僧：親川良信 上原明 童子：竹井日女子 嘉数いづみ 国吉美文

歌・三線：宇栄原宗真 新城栄一 源河朝仁 伊波正義 鳥袋昌真

箏：沢紙京子 呉屋ミネ

笛：崎原盛次 太鼓：仲地修仁

組踊：花壳の縁 立方：玉城流琉扇會

森川の子：具志堅朝堅 乙樽：平田智之 鶴松：高江洲麻美子

猿引：山入端實 猿：渡慶次翔子 薪木取：平田行正

歌・三線：新地孝一 名嘉山精健 糸数昌治 宮里秀明 宮里究一

箏：仲間頼子 野里葉子 笛：崎原盛次 太鼓：徳村昭一

※ 第10回合同発表会 浦添市民会館 1995年(平成7)10月29日

組踊：執心鐘入 立方：宮城流能造会

若松：平良須賀子 宿の女：宮城能葵 座主：宮城能史

小僧：宇座仁一 上原明 宇座里枝 鬼女：宮城能葵

歌・三線：宇栄原宗真 源河朝仁 糸数昌治 鳥袋昌真 伊波正義

箏：名嘉真直子 米須幸子

笛：崎原盛勇 太鼓：田場典景

組踊：女物狂 立方：親泊本流親扇会

人盗人：親泊久玄 男子：上原麻利江 母：大城ナミ

座主：比嘉丈芳 小僧：宮里徹雄 嶋袋邦彦

童子：大城奈々 仲田早紀 新垣奈々子

歌・三線：比嘉三男 宮城勝秀 長浜眞勇 名嘉山精健 大城英雄

箏：佐渡山久江 照屋廣美

笛：崎原盛勇 太鼓：金城睦昭

※ 第11回合同発表会 かでな文化センター 1996年(平成8)10月20日

組踊：二童敵討 立方：玉城流琉扇會

あまおへ：金城清 鶴松：神田千代子 亀千代：富里敬子

母：平田智之 供：津波盛廣 山入端實 具志堅朝堅

きょうちゃこ持：普久原涼子

歌・三線：糸数昌治 又吉章盛 源河朝仁 名嘉山精健 大城英雄

箏：伊禮紀美子 山内幸枝

笛：崎原盛勇 太鼓：田場典景

組踊：花壳の縁 立方：親泊本流親扇会

森川の子：親泊久玄 乙樽：大城ナミ 鶴松：大久保香織

猿引：嶋袋邦彦 猿：山川真紀 薪木取：真境名盛明

歌・三線：内間安勇 鳥袋昌真 新屋武 宇根良健 西村正吉

箏：照屋廣美 知花竹子
笛：崎原盛勇 太鼓：金城朝教

※ 第12回合同発表会 具志川市民芸術劇場 1997年(平成9)10月19日

組踊：執心鐘入 立方：宮城流能造組踊研究会

若松：宮城能葵 宿の女：海勢頭明 座主：宇座仁一

小僧：赤嶺治 宮城茂雄 宇座里枝 鬼女：海勢頭明

歌・三線：吉元博昌 西村正吉 上地賢一 新屋武 烏袋功

比嘉康夫 山城義明

箏：知花竹子 山川幸子

笛：崎原盛勇 太鼓：金城朝教

組踊：萬歳敵討 立方：宮城流能鳳乃会

謝名の子：宮城能鳳 慶雲：嘉手苺林一 高平良御鎮：仲嶺信吾

妻：糸数昌益 娘：根路銘広美 列女：嘉手苺幸代 諸見里春代

道行人：屋我秀樹 御鎮供：前原輝雄 新垣悟 きゃうちゃこ持：大城トミ子

歌・三線：佐久本嘉夫 宮城操 糸洲朝一 又吉章盛 前当正範

新城康弘 高江洲朝章

箏：山川幸枝 伊禮紀美子

笛：崎原盛勇 太鼓：金城睦昭

※ 第13回合同発表会 名護市民会館 1998年(平成10)10月25日

組踊：女物狂 立方：親泊本流親扇会

人盗人：親泊久玄 男子：中村龍太郎 母：大城ナミ 座主：比嘉丈芳

小僧：烏袋正堅 親泊邦彦

童子：上原麻利江 上間亜喜乃 仲程夏来

歌・三線：前当正範 當眞正義 上地賢一 目取眞興義 比嘉康夫 大宜見朝和

箏：山川幸子 知花竹子

笛：崎原盛次 太鼓：田場典景

組踊：二童敵討 立方：玉城流琉扇會

あまおへ：金城清 鶴松：神田千代子 亀千代：富里敬子

母：座安栄子 供：具志堅朝堅 山入端實 前当正雄 きゃうちゃこ持：前当笑子

歌・三線：松田盛 吉元博昌 宮城厚博 高江洲朝章 烏袋功 又吉章盛

箏：米須幸子 金城貴美子

笛：崎原盛次 太鼓：金城睦昭

※ 第14回合同発表会 宜野湾市民会館 1999年(平成11)10月24日

組踊：萬歳敵討 立方：宮城流能造組踊研究会

謝名の子：平田智之 慶雲：宇座仁一 高平良御鎮：宮城能史

妻：宮城能葵 娘：宇座理枝 道行人：宮城茂雄

列女：安仁屋葉子 伊是名五月 當眞かやの

御鎖供：上原明 赤嶺治 きゃうちゃこ持：宇座一志
歌・三線：吉元博昌 烏袋功 銘苺盛隆 我那覇好良 神田久男 當真正義
箏：手登根廣美 米須キミ子
笛：崎原盛次 太鼓：田場典景
組踊：執心鐘入 立方：玉城流琉扇會
若松：富里敬子 宿の女：神田千代子 座主：平田行正
小僧：山入端實 前當正雄 宇座理枝 鬼女：岸本恵乃
歌・三味線：西村正吉 大宜見朝和 松田盛 新屋武 前當正範 新里光雄
箏：伊禮紀美子 安里ルリ子
笛：崎原盛次 太鼓：金城睦昭

※ 第15回合同発表会 宜野湾市民会館 2000年(平成12)10月29日

組踊：女物狂 立方：親泊本流親扇會
人盗人：親泊久玄 男子：上間五月 母：大城ナミ 座主：比嘉律弘
小僧：烏袋正堅 親泊邦彦 童子：比嘉あゆみ 仲田早紀 上原麻利江
歌・三線：銘苺盛隆 神田久男 仲尾善勝 安次嶺優 多和田眞一
真榮喜清次 平良春吉
箏：与座末子 天久洋子
笛：崎原盛勇 胡弓：仲本紀夫 太鼓：奥間政二
組踊：手水の縁 立方：宮城能鳳組踊研究会
山戸：東江裕吉 玉津：新垣悟 志喜屋の大屋子：石川直也
山口の西掟：阿嘉修 門番：呉屋智 後見：玉城良和
歌・三線：比嘉盛一 上地賢一 當真正義 与志平朝得 金城光信
新崎盛忠 仲村昇明
箏：安里るり子 伊波加代子 宮城ミサ子
笛：崎原盛勇 胡弓：仲本紀夫 太鼓：神村貞一

※ 第16回合同発表会 石川市民会館 2001年(平成13)10月28日

組踊：執心鐘入 立方：宮城流能造組踊研究会・宮城能史琉舞研究所
若松：宮城能葵 宿の女：安仁屋葉子 座主：赤嶺清吉
小僧：赤嶺治 上原明 山根初美 鬼女：宮城茂雄
歌・三線：与志平朝徳 金城光信 仲尾善勝 西平守進 金城本幸 金城眞榮
箏：高江洲初子 當山初子
笛：崎原盛次 胡弓：仲本紀夫 太鼓：奥間政仁
組踊：銘苺子 立方：玉城流琉扇會平田行正琉舞道場
銘苺子：平田智之 天女：糸数弘子 おめなり：山内希恵
おめけり：山内美佳 上使：山入端實 供：平田行正 前當正雄
きゃうちゃこ持：渡慶次翔子 後見：名嘉真美幸
歌・三線：當真正義 神田久男 新里光雄 伊波政光 金城繁 目取間興義
箏：比嘉愛子 石川菅子

笛：崎原盛勇 胡弓：仲本紀夫 太鼓：神村貞一

※ 第17回合同発表会 かでな文化センター 2002年(平成14)10月27日

組踊：二童敵討 立方：宮城流鳳乃会宮城能鳳組踊研究会
あまおへ：大田守邦 鶴松：伊佐綾子 亀千代：山城亜矢乃
母：糸数昌益 供：石川直也 新垣悟 嘉手苺林一
きゃうちゃこ持：呉屋智
歌・三線：伊波政光 大城信榮 金城真榮 金城本幸 多和田眞一
仲村昇明 名嘉真清榮
箏：石川菅子 比嘉千咲
笛：崎原盛次 胡弓：仲本紀夫 太鼓：神村貞一
組踊：花売の縁 立方：親泊本流親扇会親泊久玄組踊会
森川の子：比嘉律弘 乙樽：大城ナミ 鶴松：上間五月
猿引：親泊邦彦 猿：松田ゆめ野 薪木取：親泊久玄
歌・三線：与志平朝得 鳥袋進考 金城光信 江洲眞徳 平良春吉
佐喜眞光雄 前川元
箏：天久洋子 中山民子
笛：崎原盛次 胡弓：仲本紀夫 太鼓：奥間政仁

※ 第18回合同発表会 宜野湾市民会館 2003年(平成15)10月19日

組踊：萬歳敵討 立方：玉城流琉扇會平田行正琉舞道場
謝名の子：平田智之 慶雲：具志堅朝堅 高平良御鎮：山入端實
妻：座安栄子 娘：神田千代子 列女：名嘉真美幸 渡慶次翔子
供：前當正雄 宇座一志 通行人：平田行正
きゃうちゃこ持：山内希恵
歌・三線：与志平朝徳 金城光信 金城真榮 名嘉真清榮 多和田眞一 座安裕一
箏：中山民子 宮城ミサ子
笛：上原政一 胡弓：仲本紀夫 太鼓：神村貞一
組踊：手水の縁 立方：宮城流宮城能史組踊研究会
山戸：宇座仁一 玉津：宮城茂雄 志喜屋の大屋子：赤嶺清吉
山口の西掟：上原明 門番：宇座一志 後見：山入端千賀子
歌・三線：仲尾善勝 伊波政光 金城本幸 江洲眞徳 平良春吉 真栄喜清次
箏：富山初子 高江洲初子
笛：上原政一 胡弓：仲本紀夫 太鼓：山城和正

※ 第19回合同発表会 名護市民会館 2004年(平成16)10月10日

組踊：銘苺子 立方：宮城本流宮城能鳳組踊研究会
銘苺子：嘉手苺林一 天女：東江裕吉 おめなり：又吉麻乃
おめけり：平良棟子 上使：大田守邦 供：新垣悟 前原輝雄
きゃうちゃこ持：呉屋智 後見：嘉手苺幸代

歌・三線：仲尾善勝 内間悦子 名嘉真清栄 山内ルリ子

箏：富山初子 天久洋子

笛：崎原盛勇 胡弓：仲本紀夫 太鼓：奥間政仁

組踊：二童敵討 立方：親泊本流親扇会二代目家元親泊久玄琉舞研究所

あまおへ：親泊久玄 鶴松：大城ナミ 亀千代：湧川洋子

母：親泊邦彦 供：當山力 比嘉吉保 鳥袋正堅

きゃうちゃこ持：玉城初子

歌・三線：平良春吉 金城本幸 大城信栄 金城真栄 江洲真徳 新屋顯敏

箏：新屋のり子 石川管子

笛：崎原盛勇 胡弓：仲本紀夫 太鼓：浜田昌健

※ 第20回合同発表会 かでな文化センター 2005年(平成17)10月30日

組踊：執心鐘入 立方：玉城流翠扇会 金城清一組踊琉舞道場

若松：藤田佳子 宿の女：玉城敦子 座主：糸満盛幸

小僧：大城常政 西門悠雅 上地美智子 鬼女：玉城敦子 後見：玉城海咲

歌・三線：宮城豊 与座朝明 上地弘光 内間清彦 山内ルリ子 上運天幸江

箏：新屋のり子 名嘉ハツ

笛：上原政市 胡弓：奥間政仁 太鼓：山城和正

組踊：二童敵討 立方：玉城流琉扇會平田行正琉舞道場

あまおへ：平田智之 鶴松：伊禮京子 亀千代：神田千代子

母：座安栄子 供：宮城昭博 山入端實 具志堅朝堅

きゃうちゃこ持：山内希恵

歌・三線：佐喜眞光雄 具志堅吉秀 前川元 野村朝常 鳥袋勝治 仲宗根朝儀

箏：石川峰子 比嘉キミ子

笛：上原政市 胡弓：奥間政仁 太鼓：松田弘

※ 第21回合同発表会 宜野湾市民会館 2006年(平成18)10月28日

組踊：銘苺子 立方：宮城本流鳳乃会宮城能鳳組踊研究会

銘苺子：嘉手苺林一 天女：川満香多 おめなり：伊波直也

おめけり：知花令磨 上使：大田守邦 供：糸数昌益 前原輝雄

きゃうちゃこ持：呉屋智 後見：嘉手苺幸代

歌・三線：佐喜眞光雄 仲田末好 宮城豊 具志堅吉秀 上運天幸江 宮平良廣

箏：比嘉キミ子 外當光子

笛：上原政市 胡弓：山城和正 太鼓：亀谷スミ子

組踊：女物狂 立方：親泊本流親扇会親泊久玄琉舞研究所

人盗人：親泊久玄 男子：松田ゆめ野 母：親泊邦彦 座主：比嘉丈芳

小僧：伊野波盛人 真境名律弘 童子：真栄田利歩 比嘉陽子 宮里晴香

歌・三線：鳥袋勝治 仲宗根朝儀 与座朝明 山城正俊 崎濱秀光 内間清彦

箏：幸地安子 我喜屋孝子

笛：上原政市 胡弓：渡慶次淳 太鼓：松田弘

※ 第22回合同発表会 名護市民会館 2007年(平成19)10月21日

組踊：女物狂 立方：親泊本流親扇会親泊久玄組踊・琉舞研究所
人盗人：親泊久玄 男子：松田ゆめ野 母：親泊邦彦 座主：比嘉丈芳
小僧：當山力 真境名律弘 童子：宜志富聖 池間美希 上江洲吉香
歌・三線：野村朝常 宮城豊 宮平良廣 比嘉秀昭 親川武重 又吉浩
箏：安里恵美子 外當光子
笛：上原政市 胡弓：鳥袋菊江 太鼓：松田弘
組踊：萬歳敵討 立方：玉城流琉扇會平田行正組踊・琉舞道場
謝名の子：平田智之 慶雲：具志堅朝堅 高平良御鎮：山入端實 妻：座安栄子
娘：神田千代子 列女：神田牧子 山内希恵 供：親川良信 藤村修司
通行人：平田行正 きょうちゃこ持：山内美佳
歌・三線：鳥袋勝治 仲宗根朝儀 上地弘光 内間清彦 比嘉勝 山城正俊 崎濱秀光
箏：前田理子 我喜屋孝子 幸地安子
笛：上原政市 胡弓：鳥袋菊江 太鼓：玉山正和

※ 第23回合同発表会 宜野湾市民会館 2008年(平成20)10月26日

組踊：二童敵討 立方：玉城流 金城清一組踊会
あまおへ：宇座仁一 鶴松：玉城敦子 亀千代：上地美智子
母：安仁屋葉子 供：糸満盛幸 大城常政 玉城匠
きょうちゃこ持：上地元美
歌・三線：崎濱秀光 内間清彦 仲宗根朝儀 比嘉勝 山城善吉 久場良厚
箏：幸地安子 外當光子 我喜屋孝子 太鼓：松田弘
組踊：銘苺子 立方：宮城能鳳組踊研究会
銘苺子：石川直也 天女：東江裕吉 おめなり：平良棟子
おめけり：平良美鈴 上使：嘉手苺林一 供：糸数昌益 前原輝雄
きょうちゃこ持：呉屋智 後見：嘉手苺幸代 根路銘広美
歌・三線：宮城豊 野村朝常 鳥袋勝治 山城正俊 宮平良廣 親川武重
箏：長浜まさ子 玉城明子
笛：上原政市 胡弓：鳥袋菊江 太鼓：玉山正和

※ 第24回合同発表会 名護市民会館 2009年(平成21)9月27日

組踊：萬歳敵討 立方：玉城流琉扇會 二代目家元平田智之琉舞道場
謝名の子：平田智之 慶雲：宇座仁一 高平良御鎮：山入端實
妻：座安栄子 娘：池田沙紀 供：親川良信 藤村修司
列女：仲宗根孝子 大城絵美 松本清子
道行人：具志堅朝堅 きょうちゃこ持：照屋美奈子
歌・三線：宮平良廣 親川武重 山城善吉 久場良厚 宮城盛治
下地康雄 比嘉秀春 新垣考榮
箏：知念利恵子 仲本美也子 山田愛 小底明美 仲田キヨ子
西村富子 佐和田タミ子

笛：喜友名隆 胡弓：烏袋菊江 太鼓：亀谷スミ子
組踊：花壳の縁 立方：親泊本流親扇会二代目家元 親泊久玄琉舞研究所
森川の子：真境名律弘 乙樽：親泊邦彦 鶴松：安里かおり
薪木取：親泊久玄 猿引：當山力 猿：崎濱依莉
歌・三線：内間清彦 仲宗根朝儀 上地弘光 山城正俊 崎濱秀光
比嘉勝 比嘉秀昭 玉城敦男
箏：長浜まさ子 外當光子 玉城明子 幸地安子 我喜屋孝子
笛：喜友名隆 胡弓：烏袋菊江 太鼓：登川清子

※ 第25回合同発表会 読谷村文化センター鳳ホール 2010年(平成22)9月26日

組踊：執心鐘入 立方：玉城流翠扇会家元 金城清一組踊琉舞道場
若松：上地美智子 宿の女：玉城敦子 座主：金城清一
小僧：糸満盛幸 大城常政 大城沙都稀 後見：上地元美 金城舞
歌・三線：當山巳和 比嘉いつみ 上西真理 照屋早月
箏：仲本美也子 西村富子
笛：喜友名隆 胡弓：烏袋菊江 太鼓：護得久枝美
組踊：花壳の縁 立方：宮城本流鳳乃会家元 宮城能鳳組踊琉舞研究所
森川の子：嘉手苺林一 乙樽：新垣悟 鶴松：比嘉克之
薪木取：宮城能鳳 猿引：呉屋智 猿：山内昌臣
後見：前原輝雄 嘉手苺幸代
歌・三線：崎濱秀光 比嘉勝 比嘉秀昭 山城正俊 宮平良廣
久場良厚 山城善吉
箏：知念利恵子 小底明美 佐和田タミ子
笛：喜友名隆 胡弓：烏袋菊江 太鼓：玉山正和

※ 第26回合同発表会 読谷村文化センター鳳ホール 2011年(平成23)9月25日

組踊：執心鐘入 立方：玉城流 金城清一組踊会
若松：山内小夜 宿の女：上地美智子 座主：阿嘉修
小僧：糸満盛幸 大城常政 平敷勇也 後見：上地元美 大城沙都稀
歌・三線：山城艶子 比嘉シゲ子 倉原智子 山城綾子 松川治美 小谷恵里子
箏：仲本美也子 城間初子 伊波リン子 上間春美
笛：上原政市 胡弓：生田順子 太鼓：小濱幸子
組踊：萬歳敵討 立方：宮城能鳳組踊研究会
謝名の子：東江裕吉 慶雲：新垣悟 高平良御鎮：嘉手苺林一
妻：糸数昌益 娘：玉城匠 供：呉屋智 知花令磨
列女：田口博章 岸本隼人 道行人：石川直也 きょうちゃく持：金城裕斗
歌・三線：東江司 赤嶺勝巳 新垣和則 大城松栄 比嘉剛 渡慶次淳
仲田知広 比嘉啓太
箏：知念利恵子 宮城敬子 大城裕里加 西村富子
笛：喜友名隆 胡弓：渡慶次紀子 太鼓：護得久枝美

※ 第27回合同発表会 読谷村文化センター鳳ホール 2012年(平成24)9月23日

組踊：女物狂 立方：宮城能鳳組踊研究会
人盗人：岸本隼人 母：川満香多 男子：山内昌臣 座主：玉城匠
小僧：山城峻称 知花令磨 童子：伊波心 古堅聖也 古堅聖尚
後見：嘉手苺幸代 伊波照子
歌・三線：池原敦子 小谷恵里子 上西真理 倉原智子 山城綾子
比嘉シゲ子 伊計秀子
箏：小底明美 佐和田タミ子 宮城敬子 上間春美
笛：喜友名隆 胡弓：渡慶次紀子 太鼓：仲櫛雅秀
組踊：二童敵討 立方：親泊久玄組踊研究会
あまおへ：親泊久玄 鶴松：親泊邦彦 亀千代：宮城茂雄
母：真境名律弘 供：伊野波盛人 比嘉吉保 當山力
きゃうちゃこ持：比嘉虎之介
歌・味線：東江司 濱里長希 渡慶次淳 大城直人 新垣和則
大城松栄 比嘉啓太 板良敷武
箏：西村富子 城間初子 伊波リン子 大城裕里加
笛：上原政市 胡弓：生田順子 太鼓：桃原隆

※ 第28回合同発表会 名護市民会館 2013年(平成25)9月15日

組踊：花売の縁 立方：宮城能鳳組踊研究会
森川の子：石川直也 乙樽：天願雄一 鶴松：伊波心 猿引：知花令磨
猿：古堅聖尚 薪木取：宮城匠 後見：嘉手苺幸代 伊波照子
歌・三線：比嘉シゲ子 倉原智子 小谷恵里子 山城綾子
伊計秀子 伊良波ゆかり
箏：宮城敬子 伊波リン子 城間初子
笛：喜友名隆 胡弓：生田順子 太鼓：小濱幸子
組踊：萬歳敵討 立方：宮城能鳳組踊研究会
謝名の子：東江裕吉 慶雲：新垣悟 高平良御鎮：玉城盛義
妻：新里春加 娘：謝名堂奈津 供：知花令磨 宮城匠
列女：根路銘広美 諸見里春代 通行人：石川直也
きゃうちゃこ持：又吉麻乃
歌・三線：伊計和夫 赤嶺勝巳 新垣和則 板良敷武
城間盛太 宗岡高 伊禮彰宏 福原敬
箏：上間春美 長嶺愛美
笛：上原政市 胡弓：伊禮薫 太鼓：護得久枝美

※ 第29回合同発表会 うるま市民芸術劇場 2014年(平成26)9月21日

組踊：雪払い 立方：宮城本流・鳳乃會宮城能鳳組踊研究会
伊祖の子：嘉手苺林一 供：山城峻称 思鶴：山城亜矢乃
亀千代：浦崎えりか 乙樽：石川直也 実母の亡霊：嘉手苺幸代

歌・三線：新垣和則 大城松栄 伊計和夫 板良敷武 饒波尚樹
仲村渠達也 知念勝三
箏：伊波リン子 上間春美 稲福貴子 長嶺愛美
笛：上原政市 胡弓：比嘉紀子 太鼓：桃原隆

組踊：執心鐘入 立方：玉城流琉扇會 平田行正琉舞組踊道場
宮城元流・能史之会 宮城能史組踊研究会
中城若松：神田千代子 宿の女：安仁屋葉子 座主：宇座仁一
小僧：平田智之 上原崇宏 玉城匠

歌・三線：比嘉剛 福原敬 宗岡高 渡慶次亨 富濱宗吉
漢那惠秀 知念政智
箏：大城裕里加 宮里信子 平利恵子 棚原玲子
笛：上原政市 胡弓：生田順子 太鼓：仲櫛雅秀



公演名場面



島袋正雄

野村流音楽協会組踊研修部初代部長

重要無形文化財保持者（人間国宝）

伝統組踊保存会保持者・相談役

沖縄伝統音楽野村流保持者

野村流音楽協会組踊地謡研修部を語るときに、まず思い浮かべるのは島袋正雄先生であります。島袋正雄先生の提唱で創設された我が研修部、研修部員のみならず、協会々員は感謝の念で一杯であります。

残念ながら今回、お言葉はいただけませんでした。記念誌発刊を申し上げたところ大変喜んでおりました。ここに、島袋正雄先生の肩書きと、歴代の初代部長として表示いたします。



第4代部長 現協会副会長 平 良 薫

私が野村流音楽協会組踊地謡研修部に入部したのは、今から約30年前の1985年の4月でした。当時は、組踊に関心が高く、入部希望者が多く、年齢制限や各支部に人数の割り当てをするなど、厳しい制限をしていました。しかし、時が経つにつれ入部希望者は減少し、長い間定員割れの時代があったと思います。しかし現在の組研は活気があり歌・弾奏も素晴らしく、誇らしく思います。

さて、私の在部時代の活動状況などについて話してみたいと思います。古い話ですから進んだ時代の皆さんには参考になることは無いと思いますが、組研の歴史の一コマとしてご覧ください。

まず一つ目は、平敷屋朝敏没後250年歌碑建立記念に、彼が創作した「手水の縁」の公演を勝連町農民研修センターで行ったことです。昭和61年6月26日でした。朝敏はあらぬ嫌疑で公職を奪われ、首里、那覇を転々と暮らしていたが、ついに自らの領地の平敷屋に落ち延びて失意の生活を送った。

朝敏は2年近くの平敷屋での生活を通して農民の苦勞を目の当たりにし、農業用ダムを掘り、そこから出た土でタキノー森を作り、その頂上には東屋があり、入り口には朝敏が農民を哀れんで書いた擬古文の「貧家記」の中の一節の歌碑が建っている。「哀そのはた打かへす せなかより ながるるあせや 瀧つしらなみ」

二つ目は、朝薫五番の「一日一挙上演」です。おそらく当時としては朝薫五番の一日一挙上演は初めてであったと思います。途中休憩も入れずに6時間近くの間も、多少の入れ替えはあったと思いますが、終演まで会場の琉球新報ホールは満杯でした。

一番苦勞したのが「孝行の巻」の観音の設営でした。事務局はそのことに関して誰も知らないで、宮城能史先生から手ほどきを受けました。まず、天井の四隅に縄を張り、その中心の頂上には「観音」を備え、大蛇が出てきた瞬間に祭壇の上で観音が開き大蛇をやっつけるようにしなければならぬので、そのタイミングが大変難しかったです。観音を操るのは人間がするわけですが、天井に登ってみるとなんと、天井のゴミたるや想像を絶するものでした。観音の担当をしたのが大変な思い出です。

三つ目が箏曲部員（女性）のみの地謡による「手水の縁」の公演でした。当時、私は部長をしておりまして、女性部員から「箏曲のみで地謡をしてみたい」と要望がありました。思いもよらないことで、私はおったまげました。箏曲が組踊の地謡をするということはその時までは、全く聞いたことも、観たことも無かったからです。

まずは、部員の意見を聞いて私は決断しました。彼女たちの要望を受け入れることにしましたが、私は先輩の先生方に意見を求めることはしませんでした。公演後はどうせお叱りを受ける覚悟、その際は自分が全責任を取るという覚悟でした。

しかし公演の評価は高く、私の覚悟は拍子抜けに終わりましたが、女性の組踊地謡参加の後押しになったから幸いでした。昨今の女性地謡の活躍には目を見張るものが有り頼もしい限りです。皆様のこれからのさらなる活躍を期待し結びとします。

組踊研修部の歩みについて



第8代部長 宇栄原 宗 真

組研自主公演 30 周年おめでとうございます。これも偏に今までの協会執行部、指導者、部員他立方関係者の皆様の組踊に賭けるご尽力の賜物と思われます。

私が、組研に入部した時期は入部希望者が多く狭き門でした。その後部長を任され、その時の指導者の先生には、歌・三線に現人間国宝の鳥袋正雄先生、山内昌行先生（故人）、富川盛良先生（故人）、松田健八先生、比嘉常俊先生（故人）、立方には現人間国宝の宮城能鳳先生、宮城能史先生（故人）、初代親泊久玄先生、平田行正先生（故人）、と蒼々たる先生方でした。自ずと先輩達も組踊に造詣の深い強者揃いでしたので、研修部の稽古も厳しいものがありました。

研修課程として、月一回立方を入れての研修、班毎に分けての各自稽古、基本として玉城朝薫作の五番を中心に仇討ち、人情物と稽古してきました。稽古も基本となる二仮名掛け、三仮名掛けを繰り返し稽古させられました。節そのものは分かっている、立方の唱えに二仮名掛け、三仮名掛けで歌い出す事に最初は非常に苦勞しました。又、協会本部が開催する「年一回の定期公演」や組研が自主的に公演する修了公演や、恒例の五年毎に自主上演する「朝薫五番一挙上演」等に向けて部員を班毎に分け週二回自主稽古をし、定期研修以外に組踊研究所との手合わせをして本番に向けての対応、組踊にちなんだ歌碑、史跡巡り等結構忙しい研修課程をこなしてきました。部員の中には「月一回の定例研修しかないと聞かされて入部したのに条件が違う」と不満をもらすものもいましたが今では良き思い出となっています。

公演の時には、公演に使う大道具、小道具の準備、運搬組み立て等全部員で手分けして支度しました。執心鐘入の鐘、銘苅子の松、一番難儀したのが孝行の巻の蛇、観音様のセット、蛇、観音様の出るタイミングの問題でした。出演者、裏方、大道具、小道具の組み立て、道具の運搬、舞台監督と何でも屋の様相でしたが、お陰さまで組踊全容を知ることができたのも良い研修課程でした。

部長を任された時の公演について、以前は譜面台、工工四教本を置いての公演でしたが、ある時某立方の先生に「三線の皆様は節組は覚えているのに、立方の所作も見ないで演奏しているので、三線の皆様も工工四教本を見ないで立方の所作を見て演奏したらもっと組踊が生きてくるよ」と苦言、提言されました。まったく赤面の至りでした。その後舞台では、譜面台、工工四教本を置かないで演奏する方向付けをし、今日に至っています。

組踊が世界遺産に登録された現在、部員は尚一層立方との融和を図り、共に精進を重ね頑張っていくよう祈念申し上げます。

原点回帰・そして紡ぐ



第9代部長 長 浜 眞 勇

今、ある高揚感を味わいながら組研在部時代の思い出を綴ろうとしている。記念誌の編集について、3年ほど前に企画に向かって話し合った経緯がある。この『組研の歩み』は、部員の皆様の情熱と知恵と絆が実を結んだ傑作である。部員の皆様の主体的な取り組みは、本会の活動に大きなインパクトを与えると確信する。組研修了生お一人おひとりの往時の研修の姿を躍動的に記録するコンセプトだと聞いており、画期的な内容に仕上がるのが楽しみである。

私は、平成8年度の修了生で部長を担当させて頂いた。主な活動は、南部編に続く「中北部編組踊ゆかりの地巡り」がそのひとつである。山田城、許田の手水、塩屋などであった。組踊の背景を知ることは、実演に生きる貴重な研修であることを実感した。

それこそ年の瀬も押し迫った12月28日、「愛模様」と題して家族愛、男女の愛、夫婦愛などに焦点を当てた県立郷土劇場における自主公演は忘れられないひとコマである。公演当日は御用納めの日である、果たして観客は足を運んで頂けるだろうか？大きな不安を抱えながらの幕開けとなった。かたずを飲んで客席に視線をやると！時期的な状況を勘案すれば、満足のいく客入りであった。人間愛に満ちた、いわゆる“人間讃歌”ともいえる舞台は成功した。観客とご協力頂いた出演者の先生方、部員の高い志に感謝し新年を迎えた。

修了公演は、「仇討物の系譜」をテーマに「護佐丸敵討」「萬歳敵討」「大城崩」「伏山敵討」4題を上演した。「伏山敵討」は、当時あまり上演する機会がなく、多彩でリアルな展開は組踊の新たな魅力を発見した思いであった。

さて、組研の歴史の中で部員はおそらく一度は「朝薫五番一日一挙」上演の経験がお有りであるだろう。私の最初の出会いは、観客としての琉球新報ホールにおける「朝薫五番」であった。大きな反響を呼び、客席は満杯で私は固定席のコンクリートの階段で舞台に向き合った。5時間近くかかったと記憶しているが、お尻がひりひりしていても自分を試したかった。終演までしっかり向き合い、身体的には少々疲れがあったが、満たされた手応えがあった。

私の「朝薫五番」の実演としては、宮里究一部長時代で制作もかって出た。その頃までは、先輩方がこぞって舞台進行の手伝いに駆けつけるといふ心ゆかしい気風があった。「執心鐘入」で、鐘を吊るすことになったが、琉球新報ホールはそのような近代的設備がなく、滑車も付けずにロープで舞台二階の手すり越しに引き上げたのである。鐘本体は、直径2cm程の鉄筋で組み立てられており相当な重量があった。しかも、役者が鐘に入り宙吊りとなるのである。私も含め、スタッフ5・6名で必死の思いであった。

「朝薫五番一挙」上演は、組研の誇りの一つであり、本会の伝統として後輩の皆様に継承をお願い申し上げたい。私たちは、鳥袋正雄、山内昌行、富川盛良、松田健八の諸先生方にご指導を頂いた。先生方は、部員に寄り添いながらやさしくも厳しい指導ぶりであった。三ヶ月に一度は立ち稽古があり、その手合わせに東奔西走したことも楽しい思い出である。その他の思い出は、ほかの部長経験者の皆様に任せて頑張ってもらくことにする。

先生方のご恩に報いるよう日々精進し、確かな技量を身に付けなければと、決意をまた新たにした。組研部員の粋な企画に大きな拍手を送り、お世話になった全ての方々に感謝を申し上げむすびとする。

組踊地謡研修の五年間の思い出すこと



第13代部長 仲尾善勝

この短いエッセーでは、私の五年間の研修を振り返って、深く印象に残った出来事、あるいは事柄について述べたいと思います。

まず初めに、この期間で二度「朝薫五番（一挙上演）」公演に出演したことであります。読谷村文化センター「鳳」ホールにおける、二〇〇三年三月、第二一回自主公演と、勝連町（当時）「きむたか」ホールにおける二〇〇五年三月、第二三回修了公演でありました。

次に、女性歌三線担当者が初めて三名になったことから、(当時の)我那覇好良部長と私（当時副部長）で話し合っ、女性のみによる地謡で組踊一番を行ったことであります。歌三線担当者だけでは足りないの、箏担当の方にも歌担当に加わってもらい、そのことにより、組踊の伝統から少し外れて行きましたが、その演目「執心鐘入」はとても好評だったことを思い出します。当時の少人数三名の女性歌三線部員のバイオニア的熱意と行動には敬意を表さずにはおれませんでした。

三番目に、国立劇場おきなわの柿落とし公演の後、四月十八日に第二二回自主公演を「小劇場」で開催したことであります。組踊三番と舞踊三題を演じました。その舞台が国立劇場で初めてのこともあり、舞台が組踊にはやや狭い感じがいたしました。特に「執心鐘入」において「鐘」の位置を決めるのに難しいと能鳳先生が話されていたのを思い出します。

次に、国立劇場おきなわにおける第二二回修了公演で「幸太鼓」の神村貞一さんが「執心鐘入」出演直後に帰らぬ人となりました。また、立方指導の宮城能史先生が、私自身の最後の自主公演出演となる「きむたか」ホールにおける、三月、第二三回修了公演『「朝薫五番」一挙上演』の後、三月末日帰らぬ人となってしまいました。

その修了公演のための「孝行の巻」の稽古において、ご自身の残された命を悟っておられたかのように、入院中の病院から安里の道場に出て来られ、夕方八時から夜十二時を回るまで気迫に満ちたご指導を賜りました。将に、長い芸術の中途に燃え尽きつつある芸術家の魂を見たことを思い出します。

五番目に、当時の地謡指導者および立方指導者に深謝し、お名前を列挙いたします。いつも多忙の中、地謡指導を賜りました、鳥袋正雄、(故) 富川盛良、松田健八、喜友名朝宏、(故) 比嘉常俊、の五先生方、立方指導を賜りました、(故) 平田行正、(故) 宮城能史、(二代目) 親泊興照、宮城能鳳、金城清一の五先生方に深く感謝いたします。

最後に、最も長い伝統を誇る、野村流音楽協会組踊地謡研修部において、部員の皆さんが、研修部の理念・目標を明に認識し、個人としても当然ですが、最も大切なこと、即ち、地謡集団としての技能の精進に努められるよう望みます。特に三十代から四十代の皆さんが、個人の趣味や学びを超え、意識を高く持ち芸を習い、極めることに精進されることを希望します。

それでは、この研修部の益々の発展、そして野村流音楽協会への種々の貢献を期待・祈念しつつ、筆をおきます。

自主公演 30 周年を迎えて



第 14 代部長 宮 城 豊

組踊地謡研修部自主公演 30 周年おめでとうございます。私事ですが、入部三ヶ月で愛知県に引っ越して約二年の間、組研から遠ざかって居りましたが、組踊のことが忘れられず、沖縄に戻り再入部となりました。

すぐ裏座に呼ばれ副部長やってくれと言われ、迷い悩み帰ったことを後悔しました。皆さんが支援するからと言われ引き受けたが最後、モグラ叩きいじめに会い、やって居れん気持ちになりました、我慢の一年でした。

もめ事から解放されたと思ったら卒業生二十数人が去り、その後在部員十数人が四年続きました。卒業までの三年間は部長として努めました。部員集めもうまくいかず公演にも支障が出ました。そのため、スタッフ不足でいろいろなことをしました。

例一：幕開け斉唱の省略 例二：女性のみ箏だけで執心鐘入

先生方、OBの方々から苦言も沢山いただきましたが、私の役目は「組研をまとめ、そして卒業生を送る」これに徹しました。

私までは卒業公演と題して卒業生を中心に活動してきましたが、その後自主公演に変わり先輩、後輩の区別がなくなり卒業生を角に追いやる舞台が目立ちました。又、組研の発表会でありながら、舞踊が多くなり組踊が減っている状況は、少々寂しい気がします。

祝詞に苦言めいたことになりましたが、組踊の発展を願う者の一人として皆様のお許しをいただきたいと思います。

「世の一隅を照らす組踊に幸あれ」組研の皆様頑張って下さい。

「組踊研修部六期生の足あと」

OB 昭和62年入部 上間克美

昭和六二年四月、歌三線十三名、箏二名のメンバーで組研六期生として入部しました。入部当初は、組踊がどういうものなのか、実態をつかめないもやもやした中で、月例研修が始まりました。宜野湾の「はこねレストラン」の畳間で、先輩方と新入生の合同で全体研修が持たれました。

鳥袋正雄先生、山内昌行先生、富川盛良先生、松田健八先生、保持者四名の方々が月変わり順番に指導に当たられていました。立役は、玉賜会の真喜志康忠先生、平田行正先生、金城清一先生、鳳乃会の宮城能鳳先生、親扇会の親泊久玄（現興照）先生、宮城能史先生方々が直属で協会組研の立役を努めて下さいました。いずれの先生方も活発に組踊の発表会を主催する層々たる方々でした。

朝薫五番をはじめ、「手水の縁」「花売の縁」「萬歳敵討」の八番を基本に五グループに三線と箏を分けて、二ヶ月を座研として三ヶ月目に立方研修をしました。地謡のメンバーは黒チョウハチマチを着ての正装で、立役も着物を着て実践研修をしました。二演目の舞台研修ですので、他の部員が観客となり、それぞれ観る目を養いました。その積み重ねで本格舞台は、本部主催の組研・舞研合同発表会で発揮されました。また、那覇牧志の勉強堂ビル地下の沖縄ジャンジャンでは、親泊久玄先生や、平田行正先生が度々組踊と舞踊の発表会をしていました。その地謡を組研の部員が努めたものです。ジャンジャンの舞台は狭い空間で、観客の息づかいと地謡の息づかいが聞こえる程に緊張したものです。

沖縄市芸能館では、平田行正先生率いる琉扇会の舞踊と組踊の発表会の地謡、本部町制五十周年記念の組踊公演の地謡、立方は親扇会等と地方での記念行事にも積極的に参加し地謡の技をみがきました。

組踊研修部での五年間は、またたく間に過ぎていきました。組踊の魅力を分かり始め面白さ、奥深さが理解できた頃には組研修了というタイミングでした。六期生の全員がつづけて組踊を研究しようとの機運が高まり、修了しても研究会を立ち上げようとの話が出て、修了生十五名で組踊研究会「阿吽の会」を組研修了後に発足させました。指導者には、組研と同じ四名の保持者に指導をお願いし、月例研修を始めました。組研での五年間の研修は、私たちが沖縄の偉大な文化遺産である組踊を学ぶきっかけになり、当時の指導に当たられた先生方に深甚なる感謝を申し上げます。

協会組研のますますの発展を祈念するものであります。六期生の組研部長は福地優氏 副部長は石川親助氏を中心に五年間研修に励みました。

OB 平成7年入部 島袋功

厳しい寒さが続き、師走の忙しい頃、新年の準備に追われる毎日ですが、野村流音楽協会「組踊地謡研修部」自主公演が30周年という輝かしい歳月を知り、感銘と喜びを感じています。

さて、私が三線を始めたのは昭和54年4月、24才でした。野村流古典音楽研究所、具志堅興盛先生のご指導を仰ぎ新人賞、優秀賞、教師免許を取得し、昭和62年4月から松田健八師匠のご指導を仰ぎ最高賞、師範免許を取得し今日に至っております。

昭和62年頃は、名護支部でも舞踊及び組踊地謡研修部があり、とても活気に溢れていました。その勢いに乗って平成2年から平成7年まで本部の舞踊地謡研修部を第73号で修了し、平成7年から平成12年まで組踊地謡研修部を第126号で修了しました。

名護支部の仲間と10年間三線に没頭しました。研修の行き帰りは車中話題豊富で三線以外の事も支部の先輩から学び楽しい毎日でした。当時は、入部が厳しく教師以上と年齢制限があり、また研修を3回連続休んだら退部でした。お互いに励ましあい無事修了しました。仲間の絆が強く今でも各方面で地謡を務めさせてもらってます。支部だけではなく他支部ともうまくやっていたことは、中央本部の研修部があったからこそだと感謝しています。

当時は、玉城朝薫五番を中心に組踊教本に沿って立方の役を決め、唱えからの勉強でした。組踊に縁のなかった私は役を与えられると頭が真っ白になり辞めようかと思う時もありましたが、今ではやっていて良かったと思っています。唱えからの歌出しは音程狂いで大変でした。経験を多く積んでいくうちに少しずつ音程もしっかり取れるようになりました。

研修生の中には、優れた方もいてとても励みになりました。話を聞いてみると組踊を好きになることと、数多く観て勉強することが大切だと教わりました。一時間を超える組踊になると、物凄い睡魔に襲われ最後まで観ることがとても厳しく辛かったです。やがて舞台横の字幕が出るようになり、家族も組踊を楽しむようになりました。娘に「お父さん、すごいことやっているんだね」と言われた時はとても嬉しく、今後も頑張ろうという気持ちになりました。壁にぶち当たりスランプの時は、古典音楽仲間や家族の励みで乗り越えてきました。

組踊は、昭和47年5月15日に重要無形文化財として国の指定を受け、平成22年11月には国連ユネスコ無形文化財遺産に登録されて、世界遺産として脚光を浴びています。今後は県民の期待に沿うべく、自らの技芸を磨き誇り高い伝統芸能の普及啓発に一層精進せねばなりません。今では、素晴らしい若手の方々が多く見られます。

今後ますます活気あふれる組踊研修部となりますよう、祈念申し上げあいさついたします。

三線初女性会員

OB 平成 13 年入部 内間悦子

私が組研に在籍していたのは平成十三年四月から十八年三月の五カ年でした。組研に野村流音楽協会の女性会員として初めて、私と名護支部の山内ルリ子さん二人が入部し研修する機会を得ました。その一年後に那覇支部から上運天幸江さんが入部し、私が修了するまで女性会員は三名だけでした。

当時の研修は、年度の研修計画に基づき、主に朝薫五番を中心に同じ演目を三ヶ月研修し三ヶ月目に、立方の先生を招き立ち稽古を行うという形態でした。初めて地謡出演をさせてもらったのが入部二年目の第二一回修了公演で、「朝薫五番一挙上演」と題して「女物狂」を担当しました。地謡を担当するに当たり一番気になったのが調絃の音高でした。

毎月の研修の音高は四 = C だったので、公演にその音高で女性が歌うのは、特に二揚げの独唱の揚げはきついし、聴かされる観客にとっても又、男女に関係なく苦しそうに歌っているのを聴かされるのは疲れると、日頃から思っていました。

そのため、まずは調絃の高さを決めるのが先決だと思い、立方指導・出演者の親泊久玄（現二代目親泊興照）先生の研究所を山内さんと二人で訪ね、「今回の女物狂の地謡を私たちが努めますので宜しくお願いします」と挨拶すると、先生はすぐに「皆さんは箏の方ですか」と言いました。

また、はっきりとは覚えていませんが、確か先生は「ヲウドゥキヤ サンシンヌチルクダミティアッセル モウキンド」と教わったからと云うようなことを話されました。

「今回は三線と箏で歌を担当します」と話すと「では、子持節を歌ってみなさい」と言われたので、二人で子持節を二（A シャープ）で歌いました。するとその歌に合わせて先生が台詞を唱え「この高さの倍音が四になるから、女性の歌はこの高さだと良いね」とおっしゃられたので、即音高について決まり安心しました。

最初の立ち稽古の時はすごく緊張して喉がカラカラになり音程も狂い、何度もお願いをしてはやり直し、本番を迎えなんとか無事に努め終えたとき、親泊先生が下手の舞台袖で私たちに向かって笑顔で両手を挙げて大きなまるを作っておられたのが、すごく嬉しく昨日のように思い出します。

修了するまでに女性だけで二題、男女混声で三題担当し、それぞれに稽古時や公演、立方の先生方との思い出が昨日のことにように思い出して、書きたいことがいっぱいありますが紙面の制約上割愛いたします。

今年（平成二六年）の修了公演で女性会員の活躍を観て感動しました。私たちが修了した後、一時期女性会員の入部が無く、協会本部が女性会員で一グループ出来るようにと各支部に呼びかけ、入部したメンバーが今回修了された方々だと思います。

女性会員が増え活躍できることに感謝し、三十回公演を節目に組研の益々の発展を祈念いたします。

組踊地謡の体験

OB 平成14年入部 佐喜眞光雄

一、組踊地謡研修部での体験

舞踊地謡研修部を修了した仲間たちが、こぞって組踊地謡研修部に入部したとき、自分の「声質や発声」に自信が持てない私は、入部することに躊躇しました。ところが、その二年後の芸能コンクールで最高賞に受かったことが自信になり、私も結局は入部することになりました。しかし、「声質や発声」の問題は依然として残っていました。

※「声質・発声」が悪い私が頑張れたのは

組踊地謡をして、一番印象に残っているのは、唱えに掛けて歌出しをするところでした。普通の独唱でも大変なのに、劇の中で唱えに掛けてタイミング良く、音程も狂わずに歌い出す事はとても大変でした。声質が良く、歌が上手な方でも苦勞していたようです。私の場合も、歌出しの音程が狂うことがありましたが、素早く正しい音程に修正することが、意外とスムーズに出来ました。そのことが自信になり「声質や発声」に問題がありながらも、五年の研修を続けることが出来ました。

※ 練習量とチームワークで乗り切る

舞台の演目が決まると、グループでの稽古が始まりました。場所は、地域の公民館などを使用しました。ほとんどの方が働き盛りでしたので、午後八時からの練習が多かったです。舞台の日が近づくと週一回の頻度で、稽古をしました。その中で、舞台をスムーズに乗り切るため、歌を切り出す人を決めたり、カナ掛けに失敗した時、援護する人を決めたり、また病気や事情などで出演できなくなったときに備えて、代役も決めていました。その結果、大きな失敗もなく、舞台を終えることができました。

※ 現在も続けているのは

「声質や発声」の問題は、少しは解決されましたが、しかしみんなと比べてみると、依然として私の課題として大きく残っています。ところが、私は今もある組踊地謡のグループに入り活動を続けています。不思議なことですが、実は私は緊張感が漂う組踊の舞台のとりこになってしまったようです。舞踊地謡に比べて、約一時間の舞台を立方、地謡が一体となって作っていくのがとても楽しく、充実感で満たされるのです。

今後も、健康が許す限り続けていきたいと考えています。

二、組踊学校公演実行委員会での体験【故郷沖縄に誇りを】

私がコザ高校に勤務していたとき、組踊学校公演実行委員会というところから組踊地謡への誘いがあり、入会しました。この組織は県立学校の職員で、組踊に関心のある方々で構成され、立方、地謡、裏方等、すべてその会員でまかっていました。そこで活動する中で分かったことですが、組踊の学校公演は一九七七年からすでに、高校生向けに始まっていたとのことです。その目的の一つは、復帰して間もない沖縄の状況の中で、「私達、沖縄にも素晴らしい文化がある」ことを教え、故郷沖縄に誇りをもたす事だったとのことです。私は、このような想いで学校公演をなさっている実行委員会の方々に深く、感動をおぼえました。思えば、私も復帰前、「沖縄人としての誇り」に関してほろ苦い経験があります。それは本土で大学生活を過ごしていた頃のことです。物見遊山の気持ちも少し持ちながら、本土での大学生活を始めた私は、ある日沖縄出身の先輩に、一冊の沖縄関連の本を勧められ読みました。その中で私は、歴史に翻弄される故郷、沖縄を知りました。そして、憲法に守られ一生懸命働いている本土の方々を見ている内に、戦闘機が飛び交う沖縄の風景、そして米軍人に

よるいろいろな事件、事故が多発する沖縄を思い出し、その現状に落胆しました。悔しいやら、悲しいやら、あるときは、みじめな思いもしていました。沖縄の高校生に「故郷、沖縄に誇りを」を目的の一つとして実施され、教育的、歴史的、文化的にも深い目的を持ってなされている学校公演は、私に本土での「体験」を思い出させると同時に、地謡の一人として「しっかり頑張らねば」の気持ちにさせました。

※ 教育の一環として実施された組踊学校公演

学校公演はあくまでも、教育の一環として実施されていました。それは、①実行委員会と学校の国語の先生、係りとの連携を密にする。②生徒への事前学習を実施する。③前座舞踊を生徒の中から踊ってもらう。④舞台のアナウンスはきめ細かい指導のもと、当該、学校の生徒に頑張ってもらう。⑤当日の舞踊や組踊の解説を、学校公演実行委員会がやる。等、きめ細かい計画、準備のもとに行われているのを見て、とてもびっくりさせられました。特に国語の先生をなさっていた方の舞踊や、組踊の解説には感心させられました。琉球舞踊のすばらしさや、組踊の芸術性や見所を實に見事に説明されていました。この解説を聞いた高校生は誰しも、「沖縄に生まれて良かった。

ウチナーンチュで良かった」と思い、何かしら誇らしくなったのではと思うほどでした。さらに、公演後は生徒たちの感想文が学校公演実行委員会に寄せられます。それを読んでみると、逆に私たちが励まされてるようで、来年も公演を実施しようと、いう気持ちにさせられました。退職されたこれまでの学校公演実行委員会の先輩方も、きっと、そのようなお気持ちではなかったでしょうか。その結果でしょうか。三八年間(二四九回)も公演を続けています。あらためて、学校公演の基本的な考え方やきめ細かい実施計画に、感心させられると同時に、感想文からも読み取れるように高校生のみずみずしい感性に、また、感動させられるばかりです。

三. 組踊地謡研究会「英絃会」での体験(組研同期生の練習会から入会へ)

組踊研修部を卒業した同期の仲間から、「せっかく覚えた曲を忘れてらもったいない、月一回集まって練習をしよう」との提案がなされ、私の家のすぐ側に適当な集会場があったので、私がいろいろ面倒みることになりました。そして毎月二演目の練習をしました。午前は、全員で演奏し午後は本番並みに、独唱も交えながら行いました。

それは、とても充実した練習になっていましたが、やはり、舞台発表のない練習では継続が困難になり、集まる仲間も減っていきました。そこで、残っている会員で相談した結果、会員のみんが良く知っている与志平朝得さんが事務局長をしている、「英絃会」に入会することになりました。また、会主の鳥袋英治先生は、当時、学校公演実行委員会の舞台監督をなさっていて、私も良く知っている方でしたので、スムーズに入会できました。

※ 唱えの読み合わせと語句の説明

新しい演目に入るときは、唱えの読み合わせをしながらの稽古でした、それで長時間の稽古となり、足も痛くて大変でしたが、お陰さまで表記された文字をウチナーグチで読むことが大分たやすく出来るようになりました。また、「みすずり」「おたかべ」「引はらうじ」「あじやきりぎりす」など、耳慣れないウチナー口や、当時の位名「築登之」や役職名「掟、捌理」など、語句の説明もなされ、とても勉強になりました。

また、何でも聞ける雰囲気や意見が言える雰囲気があり、みんなが一生懸命である様子が漂っています。月二回の練習は厳しく、くたくたになりますが、内容がとても充実して私の大きな楽しみになっています。入会から四年目になりますが、すでに三回もの組踊地謡を体験することが出来ました。六七才にもなり、持病の一つや二つは持っていますが、健康に留意しつつ、自分なりに努力し、継続していきたいと思っています。

第13回自主公演 琉球新報ホール 平成7年3月5日



女物狂出演者



二童敵討出演者



銘苅子出演者



孝行の巻出演者



執心鐘入出演者



女物狂



執心鐘入



銘刃子



二童敵討



「七目付」の迫力



立方の先生方



部長を囲んで

第15回自主公演 具志川市民芸術劇場 平成9年4月13日



二童敵討出演者



大城崩出演者



萬歳敵討出演者



伏山敵討出演者



二童敵討



萬歳敵討



伏山敵討



部長スピーチ

第23回自主公演 きむたかホール 平成17年3月20日



松田先生と共に



女性地謡のバイオニア



笑顔の女性部員



親泊先生を囲んで

第30回自主公演 うるま市民芸術劇場 平成25年4月7日



女物狂



孝行の巻



孝行の巻



銘刃子



執心鐘入



護佐丸敵討



舞台裏



野村流音楽協会組踊地謡研修部歴代指導者

鳥袋正雄 【保持者】	平川善幸 (故)	山内昌行 (故) 【保持者】	富川盛良 (故) 【保持者】	玉城宗吉 (故)
松田健八 【保持者】	比嘉常俊 (故) 【保持者】	鳥袋英治 【保持者】	照屋勝義 【保持者】	喜友名朝宏 【保持者】

組踊立方歴代指導者

宮城能造 (故)	親泊興照 (故)	真喜志康忠 (故)	宮城能史 (故)	平田行正 (故)
宮城能鳳	二代目親泊興照	金城清一 【全員保持者】		

野村流音楽協会組踊地謡研修部歴代部長

初代：鳥袋正雄	1977 (昭和 52) ~ 1984 (昭和 59)
第 2 代：照屋勝義	1985 (昭和 60) 1986 (昭和 61)
第 3 代：金城正助	1987 (昭和 62)
第 4 代：平良薫	1988 (昭和 63) 1989 (平成元)
第 5 代：福地優	1990 (平成 2) 1991 (平成 3)
第 6 代：仲順利治	1992 (平成 4) 1993 (平成 5)
第 7 代：宮里究一	1994 (平成 6)
第 8 代：宇栄原宗真	1995 (平成 7)
第 9 代：長浜真勇	1996 (平成 8)
第 10 代：松田盛	1997 (平成 9) 1998 (平成 10) 1999 (平成 11)
第 11 代：新里光雄	2000 (平成 12) 2001 (平成 13)
第 12 代：我那覇好良	2002 (平成 14)
第 13 代：仲尾善勝	2003 (平成 15) 2004 (平成 16)
第 14 代：宮城豊	2005 (平成 17) 2006 (平成 18) 2007 (平成 19)
第 15 代：内間清彦	2008 (平成 20) 2009 (平成 21)
第 16 代：比嘉秀昭 (故)	2010 (平成 22) 2011 (平成 23)
第 17 代：下地康雄	2012 (平成 24)
第 18 代：渡慶次淳	2013 (平成 25)
第 19 代：東江司	2014 (平成 26)

組踊研修部部員名簿

※ 途中退部員も含む、途中退部員の再入部は再入部の年度で記載。

区分	氏名	入部年度	支部名	区分	氏名	入部年度	支部名
三線	烏袋正雄	1977～1980	コザ	三線	玉城宗吉	1983	宜野湾
◇	平川善幸	◇	具志川	◇	烏袋英治	◇	コザ
◇	松田健八	◇	コザ	◇	喜友名朝宏	◇	北谷
◇	照屋勝義	◇	那覇	◇	金城昌吉	◇	浦添
◇	比嘉常俊	◇	コザ	◇	渡慶次賀正	◇	那覇
◇	知花元盛	◇	那覇	◇	屋富祖弘	◇	宜野湾
◇	新城清弘	◇	◇	◇	平良薫	1985	コザ
◇	棚原憲政	◇	◇	◇	金城正助	◇	那覇
◇	佐久間興永	◇	◇	◇	山城富一	◇	◇
◇	宮城栄光	◇	◇	◇	仲里幸造	◇	◇
◇	渡慶次賀久	◇	宜野湾	◇	与那覇勝	◇	◇
◇	名嘉真茂	◇	◇	◇	諸見政光	◇	浦添
◇	牧門武男	◇	コザ	◇	玉城秀木	◇	◇
◇	古謝進良	◇	具志川	◇	銘苺良光	◇	◇
◇	宮城文詔	◇	◇	◇	上原三郎	◇	宜野湾
◇	大城朝徳	◇	◇	◇	沢紙安松	◇	コザ
◇	比嘉政憲	◇	石川	◇	宮城澄雄	◇	◇
◇	糸数昌保	◇	◇	◇	高宮城実	◇	◇
◇	安仁屋正吉	◇	読谷	◇	目取間永良	◇	具志川
◇	松田実	◇	◇	◇	平良輝雄	◇	◇
◇	屋富祖昌栄	◇	名護	◇	比嘉謙次	◇	石川
◇	伊良波長保	◇	◇	◇	嶺井政順	◇	◇
◇	具志堅興盛	◇	◇	◇	諸見川和男	◇	名護
◇	伊波信徳	◇	◇	◇	与那嶺光雄	◇	本部
◇	又吉政一	◇	◇	◇	玉城三夫	◇	今帰仁
◇	波平憲宏	◇	宜野湾	◇	玉城徹夫	◇	◇
◇	山内昌行	1981	コザ	◇	仲村渠春考	1987	宜野湾
◇	富川盛良	◇	◇	◇	上門正光	◇	具志川
◇	東恩納清二	◇	那覇	◇	喜屋武清	◇	石川
◇	山口栄堅	◇	コザ	◇	玉城邦弘	◇	◇
◇	平良盛雄	◇	那覇	◇	玉城巖	◇	宜野湾
◇	仲嶺朝信	◇	具志川	◇	烏袋清信	◇	コザ
◇	真壁朝慶	◇	読谷	◇	松田栄正	◇	読谷
◇	照屋貞正	◇	◇	◇	上原起一	◇	那覇
◇	具志堅全信	1982	本部	◇	城間盛秋	◇	宜野湾
◇	屋良朝光	◇	コザ	◇	石川親助	◇	◇
◇	伊礼清次	◇	浦添	◇	福地優	◇	コザ

区分	氏名	入部年度	支部名	区分	氏名	入部年度	支部名
三線	高江洲昌市	1987	コザ	三線	宇栄原宗真	1992	コザ
◇	池原憲勝	◇	談谷	◇	鳥袋昌真	◇	◇
◇	上間克美	◇	浦添	◇	内間安勇	◇	◇
◇	平良昭隆	1989	那覇	◇	糸数昌治	◇	◇
◇	金城稔	◇	◇	◇	伊波政雄	◇	石川
◇	仲順利治	◇	浦添	◇	屋良常雄	◇	◇
◇	小浜源政	◇	本部	◇	伊波正義	◇	談谷
◇	宮里健一	1990	那覇	◇	糸洲朝一	1994	那覇
◇	宮里秀明	◇	◇	◇	宮城操	◇	◇
◇	松川亨	◇	浦添	◇	新城康弘	◇	宜野湾
◇	金城邦夫	◇	浦添	◇	松田盛	1995	北谷
◇	銘苅正昌	◇	◇	◇	真喜屋重厚	◇	◇
◇	新城栄一	◇	◇	◇	又吉章盛	◇	具志川
◇	金城敏夫	◇	宜野湾	◇	新屋武	◇	◇
◇	山田義夫	◇	北谷	◇	佐久本嘉夫	◇	浦添
◇	吉村昭夫	◇	コザ	◇	玉城邦夫	◇	◇
◇	長浜栄徳	◇	名護	◇	比嘉恒夫	◇	宜野湾
◇	比嘉勇	◇	コザ	◇	高江洲朝章	◇	◇
◇	新地孝一	◇	◇	◇	前當正範	◇	コザ
◇	小渡良盛	◇	◇	◇	西村正吉	◇	◇
◇	小嶺長則	◇	◇	◇	宮城厚博	◇	◇
◇	照屋政雄	◇	◇	◇	平良崇盛	◇	石川
◇	波名喜庸徳	◇	◇	◇	山城義明	◇	◇
◇	平川善喜	◇	具志川	◇	吉元博昌	◇	名護
◇	鳥袋和盛	◇	◇	◇	鳥袋功	◇	◇
◇	玉栄真光	◇	石川	◇	比嘉康夫	◇	◇
◇	嘉味田朝敬	◇	◇	◇	名渡山兼一	◇	関東
◇	宮里究一	◇	◇	◇	糸数善盛	1996	那覇
◇	當間嗣博	◇	名護	◇	宮城武碩	◇	◇
◇	比嘉三男	1991	◇	◇	比嘉盛一	◇	コザ
◇	宮城勝秀	1992	宜野湾	◇	上地賢一	◇	名護
◇	長浜眞勇	◇	談谷	◇	知念保	1997	那覇
◇	名嘉山精健	◇	那覇	◇	神田久男	◇	浦添
◇	大城英雄	◇	◇	◇	畔上泰治	◇	◇
◇	宇根良健	◇	浦添	◇	銘苅盛隆	◇	◇
◇	玉城清哲	◇	宜野湾	◇	大宜味朝和	◇	宜野湾
◇	源河朝仁	◇	◇	◇	高江洲昌健	◇	コザ
◇	宮里武廣	◇	◇	◇	安次嶺優	◇	談谷
◇	伊礼弘	◇	コザ	◇	當真正義	◇	名護

区分	氏名	入部年度	支部名
三線	目取真興儀	1997	名護
〃	我那覇好良	1998	那覇
〃	金城繁	〃	〃
〃	新里光雄	〃	具志川
〃	饒波正廣	1999	コザ
〃	西平守進	〃	〃
〃	城間辰彦	〃	本部
〃	金城本幸	2000	那覇
〃	伊波政光	〃	宜野湾
〃	仲尾善勝	〃	〃
〃	大城信栄	〃	宜野湾
〃	与志平朝徳	〃	コザ
〃	江洲眞徳	〃	〃
〃	金城光信	〃	〃
〃	新崎盛忠	〃	〃
〃	久場良昌	〃	〃
〃	多和田真一	〃	具志川
〃	仲村昇明	〃	〃
〃	真栄喜清次	〃	石川
〃	平良春吉	〃	〃
〃	名嘉真清栄	〃	〃
〃	金城眞栄	〃	読谷
〃	鳥袋進考	〃	北谷
〃	松田修	2001	コザ
〃	山内ルリ子	〃	名護
〃	内間悦子	〃	今帰仁
〃	仲田末好	2002	那覇
〃	上運天幸江	〃	〃
〃	嘉納啓介	〃	浦添
〃	上原政市	〃	〃
〃	具志堅吉秀	〃	〃
〃	佐喜眞光雄	〃	宜野湾
〃	比嘉秀季	〃	コザ
〃	与座朝明	〃	〃
〃	前川元	〃	〃
〃	宮城豊	〃	石川
〃	座安裕一	2003	那覇
〃	新屋顕敏	〃	〃
〃	野村朝常	〃	浦添

区分	氏名	入部年度	支部名
三線	新里好清	2004	那覇
〃	鳥袋勝治	〃	読谷
〃	内間清彦	2005	本部
〃	仲宗根朝儀	〃	名護
〃	上地弘光	〃	〃
〃	宮平良廣	2006	那覇
〃	崎濱秀光	〃	コザ
〃	山城正俊	〃	具志川
〃	比嘉勝	〃	読谷
〃	又吉浩	2007	宜野湾
〃	親川武重	〃	宜野湾
〃	比嘉秀昭	〃	嘉手納
〃	山城善吉	2008	具志川
〃	久場良厚	〃	読谷
〃	比嘉秀春	2009	浦添
〃	新垣考栄	〃	〃
〃	玉城敦男	〃	宜野湾
〃	比嘉いつみ	〃	コザ
〃	池原敦子	〃	〃
〃	下地康雄	〃	北谷
〃	宮城盛治	〃	具志川
〃	銘珂朝健	〃	石川
〃	照屋早月	〃	読谷
〃	仲大千咲	〃	〃
〃	當山巳和	〃	今帰仁
〃	上西真理	〃	関西
〃	渡慶次淳	2010	石川
〃	東江司	〃	名護
〃	濱里長希	〃	コザ
〃	赤嶺勝巳	〃	具志川
〃	大城直人	〃	今帰仁
〃	比嘉シゲ子	〃	浦添
〃	山城艶子	〃	具志川
〃	倉原智子	〃	関西
〃	比嘉剛	2011	嘉手納
〃	大城松栄	〃	コザ
〃	新垣和則	〃	浦添
〃	当銘由亮	〃	具志川
〃	比嘉啓太	〃	名護

区分	氏名	入部年度	支部名	区分	氏名	入部年度	支部名
三線	松川治美	2011	浦添	箏	野里葉子	1990	興陽会
◇	山城綾子	◇	コザ	◇	仲間頼子	◇	◇
◇	小谷恵里子	◇	◇	◇	新垣智子	◇	◇
◇	伊計和夫	2012	具志川	◇	知念佐代子	◇	◇
◇	板良敷武	◇	談谷	◇	伊波治代子	◇	◇
◇	城間盛太	◇	コザ	◇	上原貞子	◇	◇
◇	伊計秀子	◇	北谷	◇	沢岫京子	◇	◇
◇	伊良波ゆかり	◇	浦添	◇	呉屋ミネ	◇	◇
◇	福原敬	2013	那覇	◇	名嘉眞直子	1993	◇
◇	伊禮彰宏	◇	具志川	◇	佐渡山久江	◇	◇
◇	宗岡高	◇	関東	◇	米須幸子	1995	那覇
◇	渡慶次享	2014	那覇	◇	金城貴美子	◇	◇
◇	富濱宗吉	◇	宜野湾	◇	米須キミ子	◇	宜野湾
◇	饒波尚樹	◇	◇	◇	伊禮紀美子	◇	具志川
◇	仲村智	◇	◇	◇	知花竹子	◇	石川
◇	仲田知広	◇	コザ	◇	山内幸枝	◇	嘉手納
◇	仲村渠達也	◇	◇	◇	山川幸子	◇	北部
◇	内間安希	◇	◇	◇	名嘉ヨシ子	◇	関東
◇	金城りょう子	◇	北谷	◇	安里るり子	1998	コザ
◇	知念勝三	◇	具志川	◇	銘菊君子	◇	◇
◇	知念政智	◇	石川	◇	富山初子	2000	那覇
◇	漢那恵秀	◇	談谷	◇	高江洲初子	◇	◇
箏	宜保菊子	1980	興陽会	◇	伊波加代子	◇	◇
◇	高良時江	◇	◇	◇	与座末子	◇	浦添
◇	山内照子	◇	◇	◇	比嘉愛子	◇	宜野湾
◇	宮城秀子	◇	◇	◇	中山民子	◇	コザ
◇	新城幸子	1982	◇	◇	宮城ミサ子	◇	具志川
◇	安里ヒロ子	◇	◇	◇	石川菅子	◇	石川
◇	米須好子	◇	◇	◇	比嘉千咲	◇	嘉手納
◇	上地律子	1985	◇	◇	天久洋子	◇	北部
◇	波平エミ子	◇	◇	◇	名嘉ハツ	2002	那覇
◇	栄野川春子	◇	◇	◇	神谷和枝	◇	◇
◇	又吉八重子	◇	◇	◇	比嘉キミ子	◇	宜野湾
◇	東江朝子	◇	◇	◇	新屋のり子	◇	コザ
◇	呉屋栄子	◇	◇	◇	石川峯子	◇	石川
◇	松堂和子	◇	◇	◇	前田理子	2003	コザ
◇	佐次田シズ子	1987	◇	◇	田島美智子	◇	関西
◇	比嘉陽子	1988	◇	◇	安里恵美子	2005	那覇
◇	砂辺米子	◇	◇	◇	東恩納経子	◇	◇

区分	氏名	入部年度	支部名
箏	玉城明子	2005	那覇
＊	大城喜美子	＊	浦添
＊	長浜まさ子	＊	北谷
＊	外富光子	＊	具志川
＊	幸地安子	＊	石川
＊	我喜屋孝子	＊	北部
＊	知念利恵子	2007	那覇
＊	仲本美也子	＊	宜野湾
＊	山田愛	＊	コザ
＊	仲田キヨ子	＊	伊是名
＊	西村富子	2008	コザ
＊	小底明美	＊	具志川
＊	佐和田タミ子	2009	浦添
＊	宮城敬子	2010	那覇
＊	大城裕里加	＊	＊
＊	上間春美	＊	北谷
＊	伊波リン子	＊	石川
＊	城間初子	＊	名護
＊	宮里信子	2012	那覇
＊	稲福貴子	＊	＊
＊	前田さやか	＊	コザ
＊	長嶺愛美	＊	＊
＊	平利恵子	2013	＊
＊	国場れい子	＊	具志川
＊	棚原玲子	2014	浦添
笛	知念久光	1981	
＊	小浜義光	＊	
＊	金城裕芳	1988	
＊	崎原盛次	1990	
＊	崎原盛勇	1991	
＊	喜友名隆	2009	
＊	上原政市	2011	
＊	内間茂子	＊	
胡弓	崎原盛勇	1987	
＊	崎原盛次	1991	
＊	仲本紀夫	2000	
＊	島袋菊江	2006	
＊	生田順子	2011	
＊	渡慶次紀子	＊	

区分	氏名	入部年度	支部名
胡弓	伊禮薫	2012	
太鼓	伊良波幸善	1980	
＊	古謝進良	1985	
＊	安座間保盛	＊	
＊	屋我平光	＊	
＊	奥間貞広	＊	
＊	當山全考	1990	幸の会
＊	幸地修仁	＊	＊
＊	徳村昭一	＊	＊
＊	古宇利実	＊	＊
＊	金城朝教	1995	＊
＊	田場典景	＊	＊
＊	金城睦昭	1997	太鼓(幸)
＊	奥間政仁	2000	＊
＊	神村貞一	＊	＊
＊	浜田昌健	＊	＊
＊	山城和正	2001	＊
＊	登川清子	2005	＊
＊	松田弘	＊	＊
＊	亀谷スミ子	＊	＊
＊	玉山正和	2006	幸太鼓
＊	護得久枝美	2010	＊
＊	松田芳隆	＊	＊
＊	小濱幸子	＊	＊
＊	桃原隆	2011	＊
＊	仲舩雅秀	＊	＊

野村流音楽協会々則より（抜粋）

組踊地謡研修部及び舞踊地謡研修部規程

1. 名称

「野村流音楽協会組踊及び舞踊地謡研修部」と称する。

2. 目的

組踊及び舞踊地謡並びに伴奏者の育成強化を図ることを目的とする。

3. 組織及び運営

研修部の組織及び運営については次のとおりとする。

(1) 各研修部に次の役員をおく。

部長：1名 副部長：1名 書記：1名 会計：1名 幹事：若干名

(2) 役員は部員の中から互選し任期は2年とする。ただし、再任は妨げない。

(3) 研修に必要な指導助言者若干名を委嘱する。

(4) 第(1)号の役員は、幹事会を構成し部の運営にあたる。

(5) 各部の部員数は三線40名、箏10名、その他器楽若干名を限度とする。

4. 部員の資格条件

部員の資格条件は次の通りとする。

(1) 入部資格は教師以上の資格を有し、舞踊研修部員は満55歳、組踊研修部員は満60歳までの者とする。ただし、年齢の達する基準日は、申請書を提出する年の4月1日とする。

(2) 音声良好にして歌唱力を有し、地謡活動に積極的で、かつ謙虚なる者。

(3) 支部長の推薦を経て本部幹事会で決める。

(4) 在部年数は、両部共5年とする。(5) 同時に両部の部員となることはできない。

5. 事業

第2項の目的を達成するため次の事業を行う。

(1) 月例研修会を行う。

(2) 年1回の定期研修発表会を行うことができる。ただし、本会の事業日程に組入れ本会の事業として行う。

(3) 必要に応じ自主公演をすることができる。

6. 伴奏者

(1) 伴奏者については、所属団体長の推薦を経て、会長の承認を得るものとする。

(2) 箏伴奏者の在部年数を5年とし、入部年齢は原則として45歳までの者とする。

ただし、年齢の達する基準日は、申請書を提出する年の4月1日とする。

7. その他研修活動に必要な事項については、そのつど会長と協議する。

8. 部員の義務

(1) 部員は積極的に研修会に参加しなければならない。

(2) 部員は、無断で連続3回以上欠席した場合及び年間出席率50%に達しない者は自動的に部員の資格を失う。

9. 修了者の義務

(1) 修了者は、研修部の必要に応じ協力しなければならない。

(2) 修了者は、研修部において得た技能を支部の要求に応じ協力しなければならない。

編集後記

平成 25 年の 4 月に組研自主公演が 30 回を迎え、当時の組研下地部長の発案で記念誌作成が決まりました。

次の役員に事業が引き継がれましたが、諸般の事情により一旦は事業を断念しました。しかし、記念誌作成の要望が根強く今年度の役員になってから事業を再び進めることにしました。

指導者、部長経験者、OB、在部員に寄稿をお願いしたところ快く引き受けていただき大変感謝しています。紙面の都合上、文字数を制限したり、期限を設けたりしたことをお詫びいたします。

今年度で組研は創立 37 年です、3 年後には創立 40 周年を迎えます。更なる発展を願って小誌が OB の皆様や、在部員の方々、関係者の方々に少しはお役に立てることを期待とします。

編集委員

東江 司
平 利恵子

赤嶺 勝巳
前田さやか

長嶺 愛美
伊良波ゆかり

巻末

発行日 平成 26 年 12 月 25 日
発行 野村流音楽協会組踊地謡研修部
編集 組踊研修部記念誌編集委員会
協力 野村流音楽協会
印刷 コザ印刷所 電話 098-937-5015

組研の歩み（抄録）

<http://p.booklog.jp/book/98049>

著者：野村流音楽協会 組踊地謡研修部 記念誌編集委員会

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/znakao/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/98049>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/98049>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社ブックログ